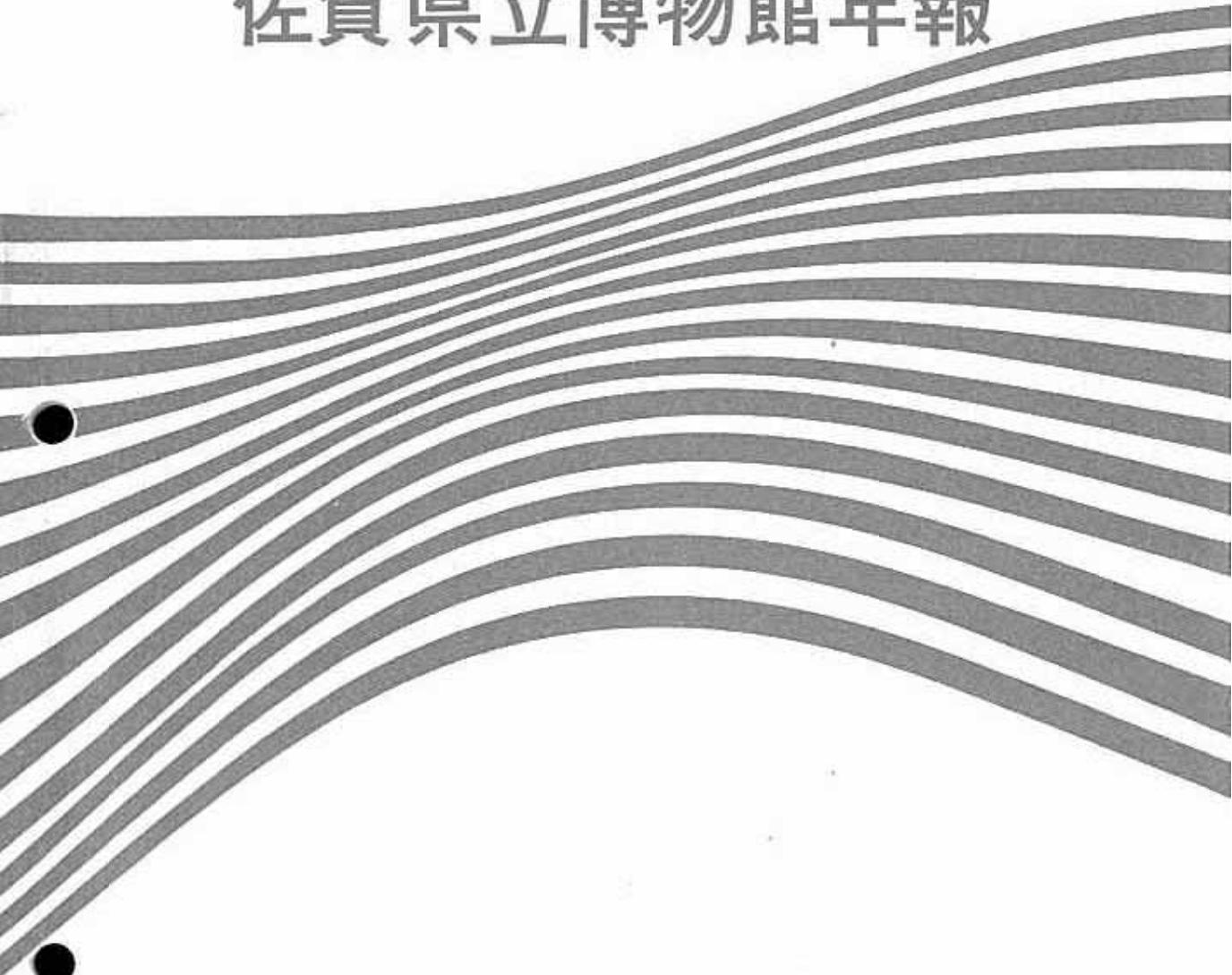


昭和 49 年度

# 佐賀県立博物館年報





佐賀県立博物館 全景

# 目 次

はじめに .....	1
管理の概況 .....	2
1. 本館の沿革 .....	2
2. 博物館日誌 .....	3
3. 規模および施設 .....	7
4. 組織 .....	8
5. 博物館協議会 .....	9
6. 昭和49年度歳出予算 .....	10
事業の概況 .....	11
1. 常設展 .....	11
2. 企画展 .....	13
3. 昭和49年度観覧者数 .....	54
4. 普及活動 .....	55
5. 発掘調査 .....	58
資料の概況 .....	59
1. 昭和48年度末資料の概況 .....	59
2. 昭和49年度購入資料 .....	61
3. 昭和49年度寄贈資料 .....	63
4. 昭和49年度寄託資料 .....	66
茶室の管理と運営の概況 .....	69
1. 茶室の規模および施設 .....	69
2. 茶室の条例規則 .....	69
3. 茶室の利用状況 .....	71
4. 茶道具資料 .....	72
昭和50年度の事業計画 .....	74
案内図 .....	75

## はじめに

昭和49年度における当博物館の事業概要をとりまとめました。この年度は、発足第5年目になりますので、過去の経験をもとにして、資料の整備、常設展の充実および特別企画展の開催等に重点をおいて努力しましたが、幸いに関係各方面の絶大なご支援とご協力を受け、ある面は予想以上に、ある面は期待していたところにはほぼ近い実績を挙げることができましたことを感謝いたします。

昭和49年度は常設の「佐賀県の歴史と文化展」の内容を充実して実施したほか、「百武・久米・岡田三人展」「肥前名刀展」「松本弘二遺作展」「佐賀県の漁撈と水鳥展」「新遺跡資料展」等を特別に企画し、広く一般に公開展示する外、各方面の協力とご支援によって、図録を刊行し、頒布しました。

また外部との連けい企画では「松方コレクション展」「日本陶磁のふるさと古伊万里展」「県展」「東光会展」「理科作品展」「N H K放送のあゆみ展」等を共催したが、積極的に企画にも参画して、新期の実績をあげることができました。

しかしこのことじゅうぶんなものではなく、今後更に資料の充実整備、研究体制の強化、展示内容の質的向上、量的拡大をはかるとともに普及活動、教育活動を充実し、事業効果の伸展を期するよう努力したいと考えております。

さらに昭和48年10月故市村清氏夫人幸恵氏から寄贈を受けた茶室「清恵庵」も、よく一般の利用が周知され、その利用者数も漸増し、県民に喜ばれていますが、折角の施設ですので、その利用管理に万全を期したいと存じます。

ここに昭和49年度の事業を集録しご報告申しあげます。

昭和51年3月

館長 大園 弘

# 管 理 の 概 況

## 1. 本館の沿革

- 昭和23年4月1日 佐賀県中央公民館設置条例に基づき、中央公民館設置。
- 昭和26年4月1日 中央公民館設置条例が廃止され、佐賀県文化館設置条例に基づく県文化館が設置される。
- 昭和35年4月1日 佐賀県文化館設置条例を、博物館登録のため改正。博物館法第10条に基づき、佐賀県文化館を博物館として登録する。
- 明治百年記念事業として県立博物館を建設することになり、佐賀大学教育学部跡を敷地に選定、昭和42年度に設計を委託し、建設計画に着手し、昭和43年度から45年度にわたる継続事業として建設することになる。
- 昭和44年1月21日 佐賀県博物館建設整備委員会を設置。
- 昭和44年1月23日 佐賀県立博物館起工式。
- 昭和45年4月1日 佐賀県文化館設置条例廃止。  
佐賀県立博物館設置条例公布。  
佐賀県教育庁博物館開設準備事務局設置。
- 昭和45年7月1日 佐賀県立博物館竣工。  
佐賀県立博物館設置条例施行。  
博物館開設準備事務局廃止。  
博物館職員の発令、館長以下18名。  
佐賀県立博物館協議会条例施行。
- 昭和45年7月16日 佐賀県立博物館協議会委員を任命。
- 昭和45年10月14日 佐賀県立博物館開館記念式挙行。
- 昭和47年3月4日 鉄器、木器減圧含浸装置を研究室に設備。
- 昭和47年12月20日 城内公園の一部（西側駐車場、東側噴水）が佐賀土木事務所から博物館に管理委任される。
- 昭和48年10月10日 茶室「清恵庵」を市村清氏のご遺志により市村幸恵夫人から寄贈を受ける。茶室落成式。
- 昭和49年3月30日 時計塔を西日本新聞社より第4回日展記念として寄贈を受ける。

## 2. 博物館日誌 (昭和49年度)

49年

- 4月1日 時計塔の寄贈式ある (西日本新聞社、第4回日展開催記念)  
人事異動発令
- 4月5日 佐賀市川原町富岡フミ氏から「小笠原長行筆二行書」1幅の寄贈を受ける。  
佐賀市大財町深川マス氏からパリ万博出品カタログ類の寄贈を受ける。
- 4月11日 山上八郎氏来館
- 4月17日 武雄市武内町丸田正美氏から「伊羅保草文菓子器」「鉄絵香合」の寄贈を受ける。
- 4月26日 武雄市東川登町江口勝美氏から「和紙染花文盛器」の寄贈を受ける。
- 5月5日 「常設展」子供の日のため無料公開
- 5月7日 白石町福吉井上徳二氏から「船魂さん」「停泊燈」「櫂」の寄贈を受ける。
- 5月10日 「佐賀県の漁撈と水鳥展」開場 (大展示室)
- 5月12日 萩千家談交会青年部 (県支部) 茶会350名
- 5月17日 九州芸術工科大学生30名来館視察
- 6月9日 「佐賀県の漁撈と水鳥展」終了
- 6月12日 NHK放送博物館久松国男氏、岩崎恒夫氏NHK移動放送博物館「放送のあゆみ展」打合せのため来館
- 6月14日 ドイツ民主共和国 (東ドイツ) の駐日大使ホスト・ブリエ氏夫妻、鍋島直紹氏来館
- 6月22日 「古伊万里展」開場式、池田知事、瀬戸口教育長、東京大学教授三上次男氏ほか多数来館
- 6月23日 「古伊万里展」一般開場 3号・大展示室  
「古伊万里展講演会」 (大展示室)  
演題 古伊万里の世界  
講師 県文化財専門委員 永竹威氏
- 6月30日 鍋島直紹氏「古伊万里展」観覧のため来館  
唐津宗徳流青年部40名茶室見学
- 7月1日 人事異動
- 7月4日 広島県知事来館  
佐賀市赤松町、西岡三郎氏から「蓄音機」「仕込杖」の寄贈を受ける
- 7月7日 「古伊万里展」終了 (総観覧者数11,149名)
- 7月13日 「肥前名刀展」展示協力委員会 (応接室)
- 7月20日 「松本弘二遺作展」開場 (大展示室)

- 8月2日 博物館協議会（応接室）
- 8月4日 「松本弘二遺作展」終了
- 8月10日 「N H K放送のあゆみ展」開場式、池田知事、宮田佐賀市長、瀬戸口教育長、梅村N H K佐賀放送局長、N H K放送博物館副館長ほか多数来館
- 8月11日 「N H K放送のあゆみ展」一般開場（大展示室）
- 8月15日 N H K総合テレビ「こんばんわ九州」で「N H K放送のあゆみ展」放映
- 8月19日 国学院大学教授樋口清之氏来館
- 8月20日 「N H K放送のあゆみ展」終了（総観覧者数20,353名）
- 8月24日 第16回研究講座（中展示室）  
演題 ヨーロッパにおける肥前陶磁  
—主として東ドイツ・ドレスデン美術館調査について—  
講師 県文化財専門委員 永竹威氏
- 9月1日 シアトル博物館東洋美術部長ヘンリー・トルプナー氏来館
- 9月4日 N H K佐賀放送局より「物売りの声」テープ2巻寄贈を受ける
- 9月7日 「東光会展」開場式 池田知事、石本秀雄氏ほか多数来館
- 9月10日 芙蓉中学校から「天体星座」円板の寄託を受ける。
- 9月14日 「理科作品佐賀市支部展」開場、大展示室（9月18日まで）
- 9月15日 東ドイツ・ドレスデン美術館ハンスロスト氏、来年度「古伊万里さとがえり展」開催の会場下見のため来館
- 9月16日 「東光会展」終了（総観覧者数5,741名）
- 9月20日 「理科作品佐賀県展」開場、大・中展示室（9月25日まで）
- 9月21日 「百武・久米・岡田三人展」開場式、森副知事、瀬戸口教育長、神奈川県立美術館匠氏ほか多数来館
- 9月23日 兵庫町青年団「ふくさ会」28名茶室利用
- 10月5日 「百武・久米・岡田三人展」特別講演会  
○「日本近代洋画の流れ」  
九州芸術工科大学教授 岸田勉氏  
○「近代洋画史における百武・久米・岡田芸術の位置」  
東京国立文化財研究所 陰里鉄郎氏
- 10月13日 日展理事古賀忠雄氏ほか5名来館
- 10月17日 太良町移動博物館開催（20日まで）
- 10月19日 博物館協議会開催（応接室）
- 10月21日 河北倫明氏「三人展」観覧のため来館

- 10月23日 基山町移動博物館開催（25日まで）  
「百武・久米・岡田三人展」終了（総観覧者数13,625名）
- 11月2日 「第24回佐賀県美術展」開場
- 11月7日 茶室「清恵庵」運営協議会開催（応接室）
- 11月8日 九州大学教授岡崎敬氏来館
- 11月10日 「第24回佐賀県美術展」終了（総観覧者数11,316名）
- 11月16日 「松方コレクション佐賀展」開場式、保利茂氏、池田知事、小原県議會議長、佐賀市長  
他数来館  
相知町移動博物館開催（19日まで）
- 12月1日 「松方コレクション展」終了（総観覧者数50,379名）
- 12月5日 「佐賀県学童美術展」開場（12月8日まで・大展示室）
- 12月7日 常設展開場
- 12月10日 佐賀大学特設美術科総合展開場（15日まで 大展示室）
- 12月18日 佐賀県高等学校美術展開場（22日まで 大展示室）
- 12月27日 消火訓練
- 12月28日 執務納め
- 50年
- 1月4日 執務始め
- 1月12日 「佐賀の自然・風土と植物写真展」開場（大展示室）
- 1月15日 常設展「成人の日」のため無料公開
- 1月19日 「佐賀の自然・風土と植物写真展」終了  
植物友の会総会（大展示室）
- 1月25日 新遺跡資料展開場（大展示室）
- 1月28日 当館の設計者高橋精一氏来館
- 1月31日 ロビー拡張工事終了  
京都大学教授乾由明氏、中里太郎右衛門氏来館
- 2月5日 定期事務監査  
忠南大学考古課長成周鐸氏、北九州市立資料館小田富士雄氏来館
- 2月8日 福岡県文化課松岡氏来館
- 2月9日 広島大学教授瀬見浩氏来館
- 2月10日 肥前名刀展協力委員会（応接室）
- 2月12日 福岡市歴史資料館下条近来館
- 2月13日 九州大学助教授西谷正助教授、慶北大学助教授 容鎮氏来館

- 2月16日 平安博物館考古課長渡辺誠氏、九州産業大学教授森定次郎氏来館
- 2月19日 福岡市立歴史館長三島格氏来館
- 2月20日 九州歴史資料館長鏡山猛氏、九州大学助教授平田寛氏来館
- 2月22日 監査委員監査
- 2月23日 「新遺跡資料展」終了
- 2月24日 京都大学教授有光氏来館
- 3月2日 「肥前名刀展」開場
- 3月5日 山口県立博物館長白杵氏来館
- 3月10日 北方町椎島山遺跡発掘調査（3月19日まで）
- 3月14日 伊万里市大川内町小笠原長春氏より青磁茶碗の寄贈を受ける
- 3月15日 第17回研究講座（共催県立図書館）  
演題 「肥前の刀と鎧」  
講師 刀剣研究家 福永醉剣氏  
場所 県立図書館講堂
- 3月22日 博物館協議会開催（応接室）
- 3月23日 「肥前名刀展」終了（総観覧者数7,865名）  
東京国立博物館小笠原信夫氏「肥前名刀展」観覧のため来館
- 3月29日 嵩木町田久保浩之氏より県内岩石資料として蛇紋岩（3.5t）の寄贈を受ける  
「緑光会展」開場（大展示室）

### 3. 規模および施設

#### 規 模

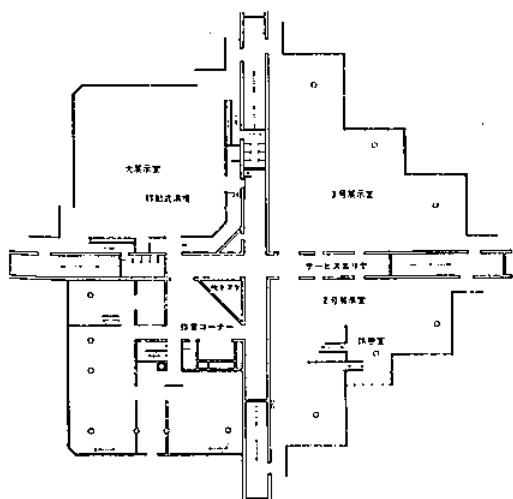
(1)本館構造	鉄筋コンクリート造 3階建
規 模	敷地面積 30,962.0m <sup>2</sup> (公園を含む)
	建築面積 2,149.1m <sup>2</sup>
	延床面積 4,638.0m <sup>2</sup>
(2)茶室構造 (清恵庵)	木造平屋建
規 模	床 面 積 57.35m <sup>2</sup>

#### 施設概要

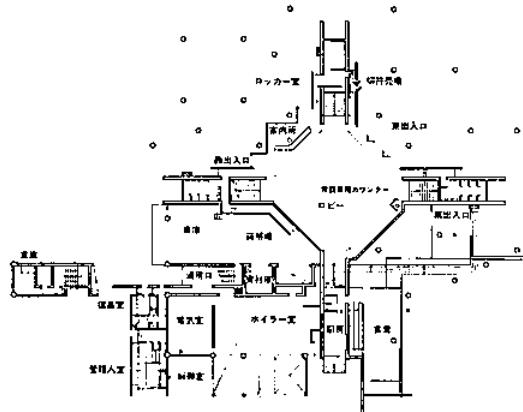
ロビー	電気室	48.0m <sup>2</sup>
(案内所、常設展受付) 349.5m <sup>2</sup>	ボイラー室	57.0m <sup>2</sup>
1号展示室 193.6m <sup>2</sup>	食堂	60.0m <sup>2</sup>
2号展示室 352.0m <sup>2</sup>		
3号展示室 484.0m <sup>2</sup>		
大展示室 523.5m <sup>2</sup>		
中展示室 136.0m <sup>2</sup>		
研究室 (ガス、水道つき) 66.0m <sup>2</sup>		
事務室 80.0m <sup>2</sup>		
資料調査室 64.0m <sup>2</sup>		
撮影暗室 24.0m <sup>2</sup>		
車庫 56.0m <sup>2</sup>		
荷解場 86.0m <sup>2</sup>		

#### 平 面 図

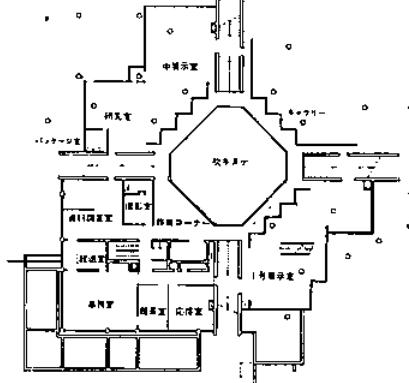
3階平面図



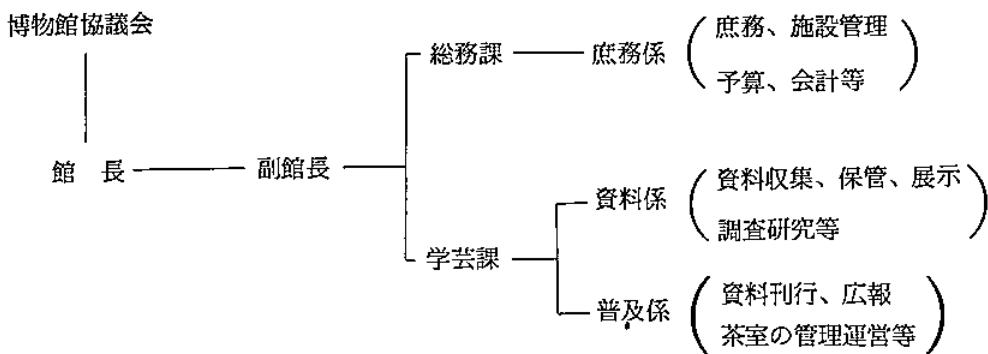
1階平面図



2階平面図



## 4. 組織



### 職員名簿

(50・3・31現在)

※人事異動

昭和49年4月1日付

館長	大園 弘	○退職
副館長	楠田 一 次	館長 古賀秀男
総務課長	池田 満 穂	○転入
庶務係長	酒見 四 郎	館長 大園弘 (参考室参考より)
主事	中村 や を	学芸員補 小杉道久 (有田中学校より)
"	小林 静 枝	
技師	吉岡 喬 二	昭和49年7月1日付
事務員(守衛)	坂井 卓 次	○退職
" (" )	小石 武 彦	
" (用務員・運転技術員)	竹下 仁 三	副館長 藤光辰次
技師(兼務)	江口 実 雄	○転出
学芸課長	手塚 静 郎	総務課長 納富武一 (九州横断自動車道用地事務所総務課長へ)
資料係長	尾形 善 郎	課長へ
学芸員補	志佐 恵 彦	○総務課庶務係主事 小柳武久 (漁政課庶務係主事へ)
学芸員	森 醇 一 朗	
"	三輪 英 夫	○転入
学芸員補	小杉 道 久	副館長 楠田一次 (県立図書館副館長より)
非常勤嘱託	永竹 威	○総務課長 池田満穂 (援護課庶務係長より)
"	久保 儀 市	
"	浜野 四郎	
普及係長(兼務)	手塚 静 雄	
主事	池田 栄 意子	
"	音成 昭 道	

## 5. 博物館協議会

### 委員名簿

(50・3・31現在)

種別	氏名	現職名	住所
学 校 教 育 関 係	高添 門司	佐賀県公民館連合会会长	伊万里市大川町大川野1098
	掛林 貞夫	多久市教育長	多久市北多久町大字多久原4537
	渕上 友規	佐賀県立盲学校長	佐賀市天祐1丁目8—5
	梶原 瞳夫	嬉野町立吉田小学校長	藤津郡嬉野町吉田納戸料
学 識 経 験 者	星野 英夫	祐徳博物館長	鹿島市城内
	内山 良男	佐賀県立図書館研究会会長	佐賀市本庄町5本杉16
	村山 宅美	佐賀女子短期大学講師	佐賀市北川副町木原4本柳
	三好 不二雄	佐賀県立図書館監修(非常勤)	佐賀市赤松町11-11
	石本 秀雄	佐賀大学教育学部教授	佐賀市中の小路9-29
	西村 重雄	佐賀新聞社 編集局長	神埼郡千代田町境原387の2
	永渕 大輔	佐賀県議会議員	佐賀市高木瀬町大字東高木1406
	岸田 勉	九州芸術工科大学教授	久留米市津福本町 931の4
	岡崎 敬	九州大学文学部教授	福岡市東区香椎御幸町公務員宿舎9-19
	米倉 利昭	佐賀大学教育学部教授	佐賀市本庄町本庄字5本杉528-1 (佐夫本庄西地区公務員宿舎)
	平田 寛	九州大学文学部助教授	福岡市南区長住3丁目62-504 公団住宅

### 協議会開催状況

第1回 開催月日 昭和49年8月2日

- 議題
1. 昭和49年度当初予算について
  2. 昭和49年度事業の実施について
  3. 昭和50年度事業計画について
  4. その他

第2回 開催月日 昭和49年10月19日

- 議題
1. 昭和50年度事業計画について
  2. 博物館の運営等全般について
  3. その他

第3回 開催月日 昭和50年3月22日

- 議題
1. 昭和49年度事業報告について
  2. 昭和50年度当初予算について
  3. 昭和50年度事業計画について
  4. その他

## 6. 昭和49年度歳出予算

昭和49年度歳出予算一覧

科 目	予算額(単位千円)
1. 博物館運営費	34,163
管理運営費	33,293
会議及び研修費	462
博物館協議会費	408
2. 資料整備費	27,129
資料購入費	21,487
資料整理費	5,642
3. 調査研究費	1,385
研究費	390
調査費	995
資料調査費	150
桃島山調査費	395
坂の下刊行費	450
4. 特別企画展開催費	8,128
漁撈と水鳥展	380
松本弘二遺作展	369
理科作品展	50
百武・久米・岡田三人展	5,407
新遺跡資料展	201
肥前名刀展	1,721
5. 常設展示費	1,076
6. 普及事業費	593
研究講座費	46
巡回展示費	47
資料刊行費	500
7. 茶室管理運営費	1,179
合 計	73,653

# 事 業 の 概 況

## 1. 常 設 展

### 佐賀県の歴史と文化展

主 催 佐賀県立博物館

会 期 昭和49年4月1日～昭和49年6月15日

昭和49年7月14日～昭和49年9月1日

昭和49年12月7日～昭和50年3月31日

会 場 1・2・3号中展示室

観覧料 個人

大人50円 大・高生30円 中・小生20円

団体(団体は20名以上)

大人30円 大・高生20円 中・小生10円

### 展 示 概 況

#### 自然史 (1号展示室)

佐賀の岩石、化石をはじめ今回は特に有明海を中心とした佐賀の野鳥を特設展示した。

##### 1. 佐賀の岩石

花こう岩、蛇紋岩、球状閃緑岩(ナポレオン石)など。

##### 2. 化石標本

コレニア、シダ化石、石炭、ヨコヤマオウムガイ、シキシマバス、メタセコイヤなど。

##### 3. 植物関係

エヒメアヤメ、ヒシ類の関係資料

##### 4. 佐賀の鳥

カササギの巣と生態、陸性水鳥カワセミ、ヤマセミ、アカショウビン、ガンカモ類、サギ類、オオハム、ヒメウなど。

##### 5. 有明海干がた生物模型、ムツゴロウなど有明海干がた風景

#### 考 古 (2号展示室)

考古学年代の生活用具をはじめ今回は県内出土の鏡及び装飾古墳壁画模写図を特別に展示した。

##### [先土器時代]

・ナウマン象・日本鹿の化石、鬼の鼻山産安山岩原石、腰岳産黒曜石原石、三年山・茶園原遺跡出土尖頭器、切立・伊古石遺跡出土各種細石器

##### [縄文時代]

・盗人岩洞穴・白蛇山岩陰遺跡出土各種土器と石器、金剛島・坂の下遺跡出土前期と中期の土器、青森県出土中・後・晚期の各種土器他

##### [弥生時代]

・弥生時代各期の土器、土生遺跡出土各種遺物、大友遺跡出土各種貝釧、桜馬場遺跡一括出土器(重要文化財)、金印(模造)、他

### [古墳時代]

- ・県内古墳出土武器・武具、装飾古墳壁画模写図、竜王崎・壱路寺・熊本山古墳ほか出土各種鏡、生活用具の木器・鉄器・土器、他。

### 歴史 (3号展示室)

近世史のなかで果した肥前の役割を中心とした資料を展示了。

#### 1. 文禄、慶長の役関係資料

- ・名護屋城出土瓦類、名護屋城屏風
- ・渡海陣立書、その他朱印状
- ・朝鮮国礼曹諭告文、晋州壬申忠烈実錄他

#### 2. 島原の乱関係資料

- ・原城攻撃軍配図
- ・誓詞、軍配備目録、戦死者名簿その他古文書類

#### 3. 葉隠写本 (山本本11巻) 現代解説本

#### 4. 江戸期の甲冑武具

- ・当世具足、墨具足、鞍鎧、槍、薙刀、火縄銃、大筒その他

#### 5. 幕末維新期の鉄砲建艦絵図

- ・築地反射炉図、多布施反射炉図、長崎砲台図、品川砲台図、精煉方図、海軍伝習所図、その他

#### 6. 佐賀藩製造蒸気車、蒸気船雛型

### 美術 (3号展示室)

佐賀県出身の大正、昭和初期の洋画家たちを特別展示了。

#### ・山口亮一 (1877~1967)

- 油彩 鳥と子供 (1922年 帝展)
- 〃 緑の庭 (1926年 " ) 他 3点

#### ・武藤辰平 (1894~1965)

- 油彩 春 (1932年 ミレー原画模写 滞欧作)
- 〃 虹 (1933年 滞欧作)

#### ・北島浅一 (1887~1948)

- 油彩 パリーの踊子 (1922年 滞欧作)
- 〃 画家の妹 (1929年 第1美術協会展出品) 他 4点

#### ・御厨純一 (1887~1948)

- 油彩 ロワール橋畔 (1929年頃 滞欧作)
- 〃 ムードンの丘より (1927年 滞欧作) 他 4点

### 工芸 (中展示室)

近世日本の窯芸の中核をなす肥前陶磁を現代の時点で、歴史的な意義付をなし造形美術上の価値を鑑賞するために肥前陶磁器コーナーを中展示室に特設した。

今回は古唐津系を中心に、全般的な肥前陶磁の流れを展示了。

古唐津岸嶽系11点、古唐津松浦系13点、古唐津武雄系10点、古唐津多久系1点、初期伊万里系5点、古伊万里系5点、柿右エ門系3点、鍋島藩窯系2点

陶片—古唐津系岸嶽系、多久系、松浦系、武雄系（南部、北部） 年表、古墳跡など関係資料20点

## 2. 企画展

### (1) 佐賀県の漁撈と水鳥展

主 催 佐賀県立博物館

会 期 昭和49年5月10日～6月9日

会 場 大展示室

観覧料 常設展と併設のため観覧料は別途徴収しなかった。

#### 展示内容

佐賀県は北は玄界灘、南は有明海に面している。有明海は潮の干満が激しく、それによってできる干潟には独特の魚貝類や水鳥が棲息し、それを捕獲する漁撈具や漁撈法にはきわめて特色がある。一方、玄界灘には対島海流に乗って北上してきた鯨を捕獲する漁撈法や磯浜での漁法など独特な漁撈法がある。

しかし、近年、時代のすう勢により捕鯨も絶え、旧来の民俗的な漁撈具は急速に失われつつあるのが現状である。そこで重要民俗資料に指定された当館所蔵の有明海漁撈具や玄海捕鯨用具をはじめ、近年新しく収集した漁撈具や生活用具を紹介して、二つの海を舞台に生活してきた人々の暮らしの知恵と歴史をさぐるとともに、そこに住む水鳥の各々異った生態を紹介して自然愛護に資するためにこの展覧会を企画した。

展示した資料は有明海関係資料108点、玄海関係資料63点、水鳥剥製標本39点、その他関連資料として魚類標本6点、文書資料7点、水鳥の生態写真等であった。

#### 出品目録

##### ◎漁撈具出品目録

###### 1. 有明海漁撈用具

干潟漁撈具 32種46点

おしいた	1
えんざ	1
おしあけ	1
むつづり竿	1
むつづり針	2
むつどう廻し網	1
むつほりぐわ	2
たきゃっぽ	4
てば	1
うなぎかき	2
うなぎうけ	1
うなぎてば	1
うなぎはさみ	2
うなぎぬき	1
にぎり	1
どうまるかご	2
すぼかき	2
さしおい	1

うみたけねじ	2
がねてぼ	2
かにかご	1
べーかご	1
うざ	2
うけ網	1
ひら流し網	1
はじ網	1
ちょっとすき (網)	1
あみとり網	1
あげまきつり	2
めかじゃーひき	1
かぎ	2
手がんづめ	1
養殖貝採集用具	14種15点
かき用	~
かき種とり	1
たねとり	2
かきよせ	1
かきとおし	1
あやかきとり	1

かきあらい (かきいれ)	1	釜	1
せっかはさみ	1	まくら箱	1
赤貝用		米入れ箱	1
たねとり網	1	米洗いでば	1
赤貝たねとり (歩行用)	1	膳	1
赤貝むき	1	湯だる	1
たぶ (手網)	1	おひつ	1
貝とり網	1	ふかほこ	1
貝あらいかご	1	つめかき (がたおし)	1
よどごし	1	洋ランプ	1
網用具及び付属品	12種25点	赤ランプ	
竹あみぬき	1	どんざ	1
はさみ	1	みの	1
あぐい	5	有明海産魚類標本	6種 6点
うおがた	1	わらすば	1
おもり (陶器、円筒形)	1	しゃこ	1
〃 (鉄釣)	1	むつごろう	1
〃 (コンクリート製馬蹄形)	1	あげまき	1
うき桶	1	がざみ	1
木うき	2	しおまねき	1
うきだる (おけだる)	1	その他	7点
うき竹	2	有明漁撈習俗図	3巻
竹うき	2	鴨銃	1
うき (ビン玉、ガラス製)	2	火薙つめ棒	1
〃 (浮子、プラスチック製)	2	立干網関係古記録	2
たこつば (素焼	2	慶長10年8月14日安順書状	
〃 (貝製)	2	寛文11年5月9日阿波長門書状	
ぶんちゃん	2	2. 玄海捕鯨用具	
舟・生活用具	21種22点	捕鯨用具	19種25点
かく舟	1	捕鯨砲	1
こんにゃくてんま	1	捕鯨砲覆い・もり網おおい	2
あかくみ (ポンプ式)	1	とっぷう	1
〃 (手くみ)	1	伝声管	1
うお舟 (手くみ)	1	でげんぱり	1
うっとい (うおすくい)	1	じゃんす	2
いけす	1	もり	1
うなぎいけす	1	もり網	1
水がめ	1	引き網	1
じろ	1	よろず	1

大切庖丁	2
はらい	2
手かぎ	1
かぎ	2
小骨切り	1
いるかもり	2
三叉もり	1
砥石および碇石入れ	1
とおめがね	1
その他	6種16点
小川島漁業共同組合旗（綿王丸）	1
どんざ	1
鯨化石	7
肥前国産物図考	1
鯨類絵巻	6
鼓溪削記	1
3. 玄海漁撈用具	
ほこ船用具	7種7点
箱眼鏡	1
あわびとり	1
あわびつき	1
あわびおこし	1
ひっかけもん	1
かまぞ	1
さお	1
船釣用具	4種
たい釣用具	
いさき〃	
ぶり〃	
いか〃	
海士用具	5種5点
おだぶくろ	1
あわびがね	1
はちこ	1
へこんこし	1
めがね	1
その他	3種6点
いかかご	2
たこつぼ	2
いけす	2

- ◎水鳥出品目録
- 参考
- アデリー ペンギン
  - アホウドリ
  - コブハクチョウ
  - シラオネッタイチョウ
  - アカオネッタイチョウ
  - ウミウ
  - ヒメウ
  - セグロカモメ
  - オオハム
  - ミズナギドリ
  - カンムリカツブリ
  - アオサギ
  - コサギ
  - クロサギ
  - ゴイサギ
  - ヨシゴイ
  - ダイシャクシギ
  - チュウシャクシギ
  - クサシギ
  - ツルクイナ（幼鳥）
  - バン
  - カツブリ
  - マガモ
  - カルガモ
  - コガモ
  - ヨシガモ
  - ハシビロガモ
  - オシドリ
  - キンクロハジロ
  - トモエガモ
  - ヒシクイ
  - ヒドリガモ
  - ツクシガモ
  - ホオジロガモ
  - カワガラス
  - カワセミ
  - ヤマセミ
- 計5

○アカショウビン  
○ヤツガシラ

計34点  
合計39点

## (2) 古伊万里展

主 催 佐賀県  
佐賀県教育委員会  
佐賀県立博物館  
有田町  
有田町教育委員会  
朝日新聞社

会 期 昭和49年6月23日～7月7日

会 場 2・3号展示室

観覧料 個人  
大人200円 大・高生150円 中・小生50円  
団体  
大人150円 大・高生100円 中・小生30円

天狗谷古窯出土の日本最古の染付白磁をはじめ、その源流、背景であった李朝朝鮮。直接、間接に影響を及ぼした中国磁器、有田とその一円を舞台に、日本磁器の粋を競った古伊万里、柿右衛門、鍋島の名品。その海外への影響を示す西欧製のイミテーション。さらに窯道具や文献などの関連資料も含め、幅広く多角的にとらえ、日本磁器の成立と展開の歴史を立体的にとらえることができるよう展示了し、一般愛好者の注目をさそった。

### 出 品 目 錄

天狗谷古窯址出土磁器片		初期伊万里白磁面取壺	江戸初期
天狗谷古窯の破片		初期伊万里染付葡萄蔓草文小壺	"
陶石（2ヵ所）		初期伊万里染付唐草文鳥図平皿（百間窯）	"
肥前名護屋城の瓦	大正年間	初期伊万里葡萄蔓草文平鉢	
肥前名護屋城図屏風		初期伊万里山水図皿	江戸初期
叩き古唐津壺	室町末期	初期伊万里千鳥絵皿	"
豊臣太閤より家長彦三郎の下付朱印状		初期伊万里染付青磁芦鷲図角鉢	"
陶石		染付山水図大皿	
金ヶ江家旧記覚書		肥前国産物図考	安永年間
李朝染付秋草文大壺	桃山初期	初期伊万里染付青磁錆絵破片（百間窯）	江戸初
李朝染付牡丹文徳利	李朝中期	染付青磁破片（百間窯）	"
初期伊万里染付松梅文瓶	朝鮮李期中期	初期伊万里染付芦雁文平皿	"
初期伊万里青磁影花文瓶	江戸初期	染付花蝶図平皿	江戸前期
染付柳文碗	"	染付花鳥図平皿	江戸初期
天狗谷古窯跡出土磁器（2点）		染付職人づくし図大鉢	江戸中期

中国古染付吹墨玉兔文皿	中国明朝末	元禄六年光茂様有田皿山代官に相渡手頭二冊
初期伊万里染付吹墨手芦鷺図皿	江戸初期期	染錦狛犬一対
初期伊万里染付吹墨手兔図平皿	"	江戸中期
染付山水図平皿		色絵麒麟香炉
青磁透彫影文大根図台鉢	江戸前期	色絵錦文鳳凰図角瓶
初期伊万里染付草花文燭台	江戸初期	染錦風俗絵図大壺
初期伊万里網手魚文壺	"	染錦桜花酒宴の図大壺
染付山水図大鉢（山辺田窯）	"	染錦鶴図大鉢
初期伊万里山水図大鉢	江戸中期	染錦牡丹唐獅子大根図深鉢
有田諸窯から出土した破片（28点）		染錦寿文深鉢
染付破片（猿川谷）	江戸前期～中期	染錦花簪手草花割文深鉢
初期伊万里釉裏紅徳文瓶	江戸初期	染錦万歴調ようらく文深鉢
初期伊万里染付兔図皿	(寛永末) 江戸初期	古伊万里色絵三果文鉢
染付花鳥図六万割文瓶	江戸前期	染錦荒磯図鉢
染付唐人山水図壺	"	染付荒磯文皿
窯の模型		染付双龍荒磯文碗
色絵山水草花文三方割文瓶	江戸前期	色絵松帆掛舟桐形小鉢
色絵芙蓉手花鳥図平鉢	"	絵手本（4冊）
色絵草花文花鳥図瓶	江戸初期	色絵風俗人形（3点）
古伊万里色絵椿図大徳利	江戸前期	染錦唐花山水図六方割蓋物
康熙五彩花鳥文平皿	中国清朝	古伊万里色絵牡丹菊鳥文獅子蓋大鉢
色絵亀甲花詰文角瓶	江戸中期	色絵丸玉文狗犬一対
柿右衛門色絵花蝶図壺	江戸中期	色絵助六人形
染付唐人松竹梅図角壺	江戸前期	古伊万里色絵婦人像
色絵面取花簪手飾壺	江戸中期	色絵男子像
鍋島藩窯の絵図大皿	江戸後期	色絵梅がえ人形
色鍋島岩牡丹文台皿	江戸中期	色絵天神像（2点）
色鍋島糸巻文台皿	江戸中期	山海名産図絵（一冊）
色鍋島柳に燕文台皿		染錦歐風俗様式酒壺
江戸時代の名代札		染錦歐風俗様式酒壺
大正8年11月に行なわれた 歌舞伎・帝国劇場のチラシ		染付東印度会社社標字文皿
柿右衛門色絵花蝶図輪花形深鉢	江戸中期	染付草文V O CとN字大皿
柿右衛門色絵四方割草花文壺	"	染付花鳥唐人図平鉢
小学校読本		色絵風俗図葉種瓶
元禄3年土合張赤絵之具覚他見無用集		染付草花文葉種瓶（ガリポット）
御用御注文帳 2冊		染付花鳥図葉種瓶（ガリポット）
公儀御焼物覚（柿右衛門）一巻		染錦歐風俗様式酒壺
柿右衛門色絵花鳥図壺	江戸前期	色絵牡丹図手付水注
土型（6点）		染付芙蓉手花鳥図大鉢

明朝染付芙蓉手鉢	中国明朝	江戸中期
染付芙蓉手皿破片（9点）	江戸前～中期	"
古伊万里染錦花籠手菊花文鉢	江戸中期	"
古伊万里染錦花籠手菊花文鉢の倣製品	"	"
柿右衛門色絵葡萄栗鼠図瓢形手付水注	"	江戸後期
柿右衛門染錦ぶどう鳥文瓢手付水注	"	江戸末期
柿右衛門色絵牡丹図手付水注	"	"
染錦草花欅字文手瓢形瓶	"	江戸後期
染付花鳥図手付壺	"	"
染錦草花文欅字文手付小瓶	"	日本磁器貿易（英文2冊）
染錦菊図手付壺	"	オランダ民俗博物館が出した
西欧文字入り日常食器（3点）	"	リンデンの画いた幕末出島の市街図写し
染錦傘婦人図平鉢	"	版画、長崎出島絵図
染錦風俗図ひげ皿	"	東南アジア風俗図色絵壺
シャンティー窯の柿右衛門倣製品	18世紀	江戸中期
ヨーロッパ窯柿右衛門倣製品	江戸中期	"

### (3) 松本弘二遺作展

主 催 佐賀県立博物館

会 期 昭和49年7月20日～8月4日

会 場 大展示室

観覧料 常設展と併設のため観覧料は別途徴収しなかった。

#### 展 示 概 況

松本弘二是本県出身で、二科会に所属し、昭和41年には青児賞を、同45年には総理大臣賞を受賞、二科会の重鎮として活躍したが、昨年6月逝去した。

松本弘二没後一年にあたり、初期から晩年にいたる代表的遺作約百点を展覧し、そのすぐれた画業を紹介した。

また、この展覧に関し出品物全点を掲載した図録「松本弘二」を刊行した。

#### 出 品 目 錄

(油 彩)

作 品 名	製作年	材質	タテ×ヨコ
鍋島屋敷	1915年	油彩・画布	37.9×45.5
水道橋駅風景	1921年	" "	80.2×100
ル・バザール	1930年	" "	116×91.0
旧市街の一角	1930年	" "	90.9×72.7
休み日	1930年	板	27.3×22.0
クラマールの森	1930年	紙	37.9×45.5

パリーにて (裸婦)	1931年	油彩	"	27.3×34.8
パリーの女	1931年	"	板	27.3×22.0
ムードンの森	1931年	"	画布	37.9×45.5
部屋	1931年	"	紙	31.8×40.9
リンゴの花	1931年	"	"	24.2×33.4
東京の屋根	1932年	"	画布	112.1×145.1
レモンのある静物	1933年	"	"	50.0×60.6
赤坂見付	1937年	"	"	130.3×162.1
滞船	1937年	"	"	130.3×162.1
花を持つ女	1937年	"	"	131×97
川岸	1938年	"	"	130.3×162.1
思い出の海金剛	1938年	"	"	112.1×145.5
高原にて	1939年	"	"	130.3×193.9
雪、月、花	1939年	"	"	60.8×50
贈られた花	1939年	"	"	80.3×65.1
金剛山	1939年	"	"	53.3×65.5
堀端風景	1939年	"	"	31.7×41
川上風景	1939年	"	"	60.5×72
雉子	1941年	"	"	90.9×65.1
上海風景	1942年	"	板	31.4×40.7
炭をかつぐ人	1943年	"	画布	60.6×50.0
雪に椿	1947年	"	"	45.5×52.9
朝顔	1948年	"	"	33×24.5
ちまた	1949年	"	"	130.3×193.9
雪山、湯沢	1949年	"	"	60.6×72.7
N氏像	1949年	"	"	41×31.7
海女	1950年	"	"	80.3×100.0
滞船	1950年	"	"	91×117
海鹿島の夏	1951年	"	"	91.0×116.7
原釜の夏	1952年	"	"	91.0×116.7
三原山	1953年	"	"	60.6×72.7
木曾川の夏	1953年	"	"	80.3×100.0
大島元村にて	1953年	"	"	40.8×72.7
牡丹	1954年	"	"	90.9×72.7
宣伝戦	1954年	"	"	91.0×116.7
少女	1954年	"	"	45.5×32.9
室内	1956年	"	"	90.9×72.7
ブルヴァーブルB	1957年	"	"	73.5×91
ひなげし	1958年	"	"	72.7×60.6

秋果図	1958年	油彩・画布	72.7×60.6
満潮の頃	1958年	" "	130.3×162.1
内牧の阿蘇	1959年	" "	91.0×116.7
春雪	1960年	" "	130.3×97.0
春雪	1960年	" "	100×80
ネオンサイン (熱海)	1960年	" "	91.0×116.7
瓜痕	1961年	" "	130.3×97.0
平戸港	1962年	" "	130.3×97.0
バラ	1962年	" "	60.6×50.0
出漁	1963年	" "	97.0×130.3
新雪 (富士)	1964年	" "	116.7×91.0
日照る雨	1964年	" "	130.3×162.1
グラバー邸	1966年	" "	53.0×65.1
吾子の初旅	1967年	" "	130.3×162.1
逍遙遊	1968年	" "	116.7×91.0
広場	1969年	" "	130.3×97.0
バラ	1969年	" "	45.5×37.9
風景	1969年	" "	24×33.5
バラ	1970年	" "	53×45.5
男鹿の夏	1970年	" "	80.3×100.0
渚の朝	1971年	" "	116.7×91.0
富士黎明	1972年	" "	72.7×60.6
雄物川の冬	1973年	" "	91.0×116.7
春雪	1973年	" "	90.9×72.7
アルプス (絶筆)	1973年	" "	45.5×53.0

(素描・水彩)

椅子に腰かける女 (I)	滝歐作 (1930~32)	ペン・淡彩	56×44
裸婦 (I)	"	鉛筆	30×57
裸婦 (II)	"	" "	38×50
椅子に腰かける女 (II)	"	" "	56.5×44
椅子に腰かける女 (III)	"	ペン	57×30
裸婦 (III)	"	鉛筆	56×44
裸婦 (IV)	"	" "	45×55.5
椅子に腰かける女 (IV)	"	コンテ	56×45
カフェーにて	"	鉛筆	45×56
画室にて	"	"	45×56
炭をかつぐ人	1941年	" 淡彩	36.4×27
柳と舟	1942年	ペン	25.4×35

仙牡丹	1942年	鉛筆・淡彩	35×25.4
上海・アスターハウス	"	" "	29.6×42
弘子像（A）	1945年	" "	29.8×21
弘子像（B）	"	" "	29.8×21
湯沢	1949年	" 淡彩	27×36.4
牡丹	1953年	" "	26×18
静物	1955年	" "	27.4×36

#### (4) NHK放送のあゆみ展

主 催 NHK佐賀放送局、NHK放送博物館、佐賀県立博物館

会 期 昭和49年8月11日（日）～8月20日（火）

会 場 大展示室

観覧料 無料

展 示 概 況

大正14年の春、日本ではじめてのラジオが東京、愛宕山から流れた。それから50年、放送の技術はおどろくほどの進歩をした。その50年間のあゆみを機器とパネルと録音、録画を使って展示した。

主な展示品は

1. 放送のあゆみ50年

初期のラジオ、マイクロフォン、古い型のテレビ、最新型のテレビカメラ等120点

2. 音で聞く昭和の歴史

日本的な、世界的にも話題を生んだニュースを伝えたテープを8台の受話器をセットし公開した。

3. アニライター

手や筆を写さずに字だけがテレビに映る仕組を実験で公開。

4. スクリーンプロセス

汽車の座席をセットして、走る汽車の窓の風景をうつし出すのを実験で公開。

5. 効果音コーナー

ラジオ、テレビのドラマに使う、雨、波の音、ウマの蹄、カエルの鳴声の小道具。

その他「太陽電池」「放送文化財ライブラリー」「国際放送コーナー」など。

会期中FMリクエストアワー公開やテレビ婦人教室などを開いた。

会期中20,353名が来館した。

#### (5) 東光会展

主 催 佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館

後 援 佐賀県文化会議、佐賀美術協会、県造形教育研究会

会 期 昭和49年9月7日～9月16日

会 場 2・3号展示室

観覧料 個人

大人100円 大・高生60円 中・小生30円

団体

大人80円 大・高生40円 中・小生20円

### 展 示 概 況

東光会創立40周年を迎えた記念展である。県内には東光会に所属する有力な作家が多く、総出品点約106点の内、一般出品者を含めて、30数点の本県関係者の作品を展覧した。

### 出 品 目 錄

静物	石橋 久子	塔	毛利 一穂
梟と少女	杉本 好守	立つ女	森田 茂
ポニークラブ	酒井 賢	港の街	石本 秀雄
フラワーショップ	坂 恵子	琉球踊讃歌	岩下 三四
室内	蕨 恵子	ベニスの運河	平通 武美
静物	野間 隆	裏町	坂田 憲雄
流民	佐藤 竜人	阿蘇	田代 順七
郡落その58	野口 稔	花	原本 賢治
雪	石原 梅男	インドネシアの娘	竹本 保
赤いステージ	金田 絵美	大利根秋景	斎藤 英一
室内	井上 佳美	シャルトル	秋元 清弘
室内	安増千枝子	地中海沿岸風景	大歳 明
白い道	木下 博寧	竜安寺石庭(版画)	守洞 着
白津井	前原 喜好	高原風景	葦名 芳夫
メリーゴーランド	浅野 雛子	河岸の家(シャルトル)	山崎 修二
金閣寺	辻田 嘉邦	晩秋駅館川	大平敬次郎
みなと	江浦 進	坂上の教会	小野 政吉
ジャズの男たち	柳楽 吉郎	憩えるピエロ	熊岡 正夫
山村風景	松本 孝之	風景	林 林男
菜を洗う人	小枝 利汎	早春	胡桃沢源人
シャルトルの大寺院(水彩)	久木 元薰	静物	江藤 哲
匂(こののはなさくや姫)(版画)	山田 光造	庭先	上石田哲夫
花仔	中里 巍	湧き水の鯉	三田村 篤
一隅	渡辺 満	祭	奥野 晃史
裏町	豊嶋利右門	笠置晚秋	辻 利平
四季	小林 欣子	朝市とおばあさん	関 真
停泊6(飘々と)	宮本 明	文楽人形	柳井 愛子
静物	西田 文子	裸婦	太幡 九百
白い建物	松田 茂	歩行者天国にて	竹留 一夫
ペルジア	伊東 順子	踊り子たち	河井 達治

塔	能登 靖幸	港	蒲原 密雄
長崎のマリヤ園	山田 正孝	むつごろう	富崎長太郎
串本港	家永駿三郎	廃船	乗田 貞勝
猫をだく母像	松永敏太郎	予言74-1	毛藤 忠
静物	渡辺 浩三	国道34号	吉田 昭彦
ひるね	山本日子士良	室内Ⅰ	有森 優子
淡路人形	大歳 敏秋	あむ	梶田 祥子
老梅	武永 権雄	誕生Ⅱ	蒲原 伸子
犬吠崎	稻村 退三	スクラップのある風景B	久保 武
波切	井原 智義	田植暮色	古賀 昭雄
野馬追祭	三塙 清己	静物	香田 茂
美術館にて	檜崎 重視	静物	坂田 昭雄
黄昏の雲仙	江口 明	ふな市 (B)	下村 康二
愛子と牛	大久保孝夫	屋の港	田崎 恵之
たこをあげる子供達 (Ⅱ)	金子 剛	休憩	高井 信義
沖縄風景	兵動 健吾	花売りA	納富 照枝
対岸	吉田 進一	船金庫の古時計 (A)	秀島 達朗
蓮田風景	江口 孝徳	矢瀬の里	藤田 秀穂
朝市	古賀 和夫	初秋の阿蘇	真崎 団造
空な女	上巣 泰嗣	託す	豆田 正二
南からの客人 (ジャワ人形)	杉本 弘子	風景	森田 正文
廻屋	鶴 義男	ししまい (A)	安田憲一郎
港の午後	野中 勝正	庭の片隅	山村 熊雄

## (6) 理科作品展

### ○佐賀市支部展

主 催 佐賀県立博物館、佐賀県理科教育振興会佐賀市支部

会 期 昭和49年9月14日～9月18日

会 場 大展示室

観覧料 無料

出品数 小学校 138、中学校59、計197

入選数 小学校 39、中学校19、計57

### ○佐賀県展

主 催 佐賀県立博物館、佐賀県理科教育振興会

会 期 昭和49年9月20日～9月25日

会 場 大・中展示室

観覧料 無料

出品数 小学校 180、中学校53、高等学校13、計 246  
 特選数 小学校36、中学校18、高等学校 8、計62  
 入選数 計 57  
 佳作数 計 127

#### (7) 百武・久米・岡田三人展

主 催 佐賀県立博物館  
 会 期 昭和49年9月21日～10月23日  
 会 場 2・3号展示室  
 觀覧料 個人  
     大人 300円 大・高生 200円 中・小生 100円  
     団体  
     大人 250円 大・高生 150円 中・小生 50円

#### 展示概況

本県出身で近代洋画の草創期に活躍した百武兼行、久米桂一郎、岡田三郎助の代表的遺作約150点を紹介したものである。とくに百武、久米の遺作は初出品のものが多く、多大の反響があった。

なお当展に関する図録「百武兼行、久米桂一郎、岡田三郎助」を刊行、また会期中、九州芸術工科大学教授岸田勉氏（日本近代洋画の流れ）と東京国立文化財研究所員陰里鉄郎氏（近代洋画史における百武・久米・岡田の芸術）による講演会を催した。

#### 出 品 目 錄

##### ◎百武兼行

北イングランド風景	1873年	油彩・画布	30×45.5
風景	" "		24.6×33.7
母と子	1881年	" "	112×85
風景	1876年	" "	46×30.5
風景		" "	41×70
風景		" "	61×91.4
イングランド風景	1876年	" 紙	24.5×34
富士遠望図	1876年	"	40.5×55.8
楽器を持つ男		板	20.7×12.8
向島風景		紙	37×55.8
古城趾図	1878年	画布	83×114
古城趾図（下図）	1878年	" "	60×50
ブルガリアの女	1879年	" "	81×100
マンドリンを持つ少女	"	" "	114×82
海辺	1879年	" "	25×33.5
老婦人像		" "	53×56
タンバリンを持つ少女		" "	65×54.5

自画像		油彩・板	21×16
タンバリンを持つ女		〃 画布	95.5×73
石膏像		〃 "	76×63.3
人物(習作)		〃 "	45.8×37.8
朗姫像	1880年	〃 "	50×40
画室		〃 "	46×55.5
男半身像		〃 "	59×68.5
イタリア風俗		〃 "	66×56
少女像		〃 "	45.6×33.5
臥裸婦		〃 "	97×187
少女像		〃 "	46×37
老婦人像		〃 "	41×32
婦人像		〃 "	55×46
ピエトロ・ミカ図	1882年	油	"
ピエトロ・ミカ図	1882年	油彩・板	25×19
天山風景 (下図)		〃 画布	38×45.5
風景		鉛筆 紙	39×28.2
人物と馬		〃 "	26.8×34.5
素描裸婦(少女)		木炭 紙	63×48.5
〃 "		〃 "	63×48.5
素描男裸体		〃 "	
ピエトロ・ミカ図		鉛筆 紙	40.5×30.3
風景		〃 "	28×21.8

### ◎久米桂一郎

ルイニ原面模写		油彩・画布	49×60
ベリニ " "		〃 "	45.7×64.0
ルイニ " (小兎に葡萄)		〃 "	50×61
静物		〃 "	45.5×54.5
睡蓮		〃 板	32.5×24.5
男裸体(習作)		〃 画布	80.3×65.1
寒林枯葉	1891年	〃 "	40.8×58.8
フレハ島		〃 "	41×62
フランス風景		〃 板	32.5×24.5
フランス風景		〃 画布	32×41.5
羊飼		〃 "	26×37
林檎拾い		〃 "	115×88
泊船		〃 板	25×34.5
造船場		〃 画布	29×38

晩秋	1892年	油彩・画布	72×98
道	"	"	33×48
長田秋濤氏像	1892年	"	64×53.5
ゼーブル橋畔	"	"	34.5×49
教会堂	"	"	27.2×35.5
グレーの風景	"	"	44.5×58.5
姉の像	1893年	油彩・パステル	65×51
祖母像	"	"	27.3×35.5
清水寺	"	"	60×75
清水秋景図	"	"	55.0×55.5
河原	"	"	32×39.5
祖母像	"	"	53.2×64.8
加茂川の新緑	"	"	30×43.5
夏の夕暮	1894年	"	42×54.5
秋景	1895年	"	98×71
秋景下図		"	32.5×24
婦人像		"	35×25.5
少女		"	35×26
肖像		画布	54.8×42.2
海辺		"	26×35
小代為重氏像	1898年	"	31.0×22.5
網干	"	"	25.1×34.9
風景		"	37.5×45
三津浜風景	1930年	水彩・紙	32.2×20.8
労働		木炭	33×45
素描石膏像	1886年	"	61×47
素描裸婦		"	61×47
"		"	61×47
男裸体		"	61×47
"		"	61×47
素描坐せる裸婦	1886年	"	61×47
素描立てる裸婦		"	61×47
素描パリ風景		キャンバス・鉛筆	61×47
水彩小品(4図)		水彩・鉛筆	12.7×20
素描裸婦		木炭 紙	61×47
黒田清輝筆久米桂一郎像	1897年	板・油彩	34.5×25.0
黒田清輝筆画室にての久米氏像	1889年	キャンバス・油彩	39.1×47.5

◎岡田三郎助

女の肖像	1898年	油彩・画布	46.5×35.5
ファルギュール	1899年		41.0×25.1
セーヌ河畔の上流	"	油彩・画布	51×66
ムードンの夕暮	"	" "	66×54.5
臥裸婦	1900年	" "	45×91.5
西洋婦人像	"		45.4×37.9
レンブラント自画像模写	1900年		81×63.5
少年	"		41×32
バラの少女	1901年	油彩・画布	119×79
逍遙	1901年		21.0×33.0
紅衣夫人	1907年	"	60.5×50.0
萩	1908年	油彩・画布	112×78.9
雑草図	1909年	" "	73×42.4
婦人像	"	" "	40×51.6
大隈侯夫人像	"	" "	91.5×60.6
婦人像		" "	41.0×31.8
雪景	1913年	" "	21×26
若き娘の顔	"	" "	41×31
海辺裸婦	1914年	" "	144.5×65.5
髪梳く女	1915年	" "	60×46
水浴の前	1916年	" "	200×76
バラ	1916年	油彩・画布	49.2×41.5
花野	1917年	" "	65×91
髪を梳く	1918年	コンテ 紙	92.0×65.0
髪を梳く (下絵)		油彩・画布	60.0×43.5
支那絹の前	1920年	" 紙	121.2×90.9
バラ	1926年	" 画布	15×11
薔薇	1931年	" 板	45.5×38.0
満州記念	1933年	" 紙	63×65.5
少女 (習作)	1934年	" 画布	53.0×45.5
信州沓掛にて	1935年	" "	22.0×27.0
婦人半身像 (下絵)	1936年	パステル・紙	62.0×47.5
志賀高原琵琶池	1937年	油彩・画布	60.6×80.3
坐裸婦	"	" "	40.9×31.8
婦人像		" "	
裸婦		" "	
水辺の柳		紙本着色	49×99
冠をつけた女の像		油彩・画布	
桃の林		油彩・画布	33.3×45.5

フランスの風景		パステル・紙	53.0×72.5
婦人像		油彩・石膏	53.0×40.9
帆掛舟（裸婦）		〃・画布	ミニチュア
鶴図		〃〃〃	91.0×72.8
素描少女		紙・鉛筆	18.8×12.2
裸婦		コンテ・紙	27×19
少女二人		色鉛筆・〃	11.2×15.6
月見草		ペン・水彩〃	16×22
素描フランス風景	1897～1901	コンテ・紙	13.0×19.5
素描街頭スケッチ	"	鉛筆・ペン・紙	各 6.8×9.7
素描立てる裸婦		コンテ・紙	36.0×17.3
髪を梳る裸婦		〃〃	60.0×43.5
素描樹間の道		〃〃	10.5×18.0
津川岩越国境		鉛筆 紙	各11.6×16.5
I氏像	1907	油彩・画布	72.8×60.6

### (8) 第24回佐賀県美術展

主 催 佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館

会 期 昭和49年11月2日～11月10日

会 場 1階ロビー、1・2・3号・大展示室

観覧料 個人

大人 100円 大・高生50円 中・小生30円

団体

大人 80円 大・高生30円 中・小生20円

### 展 示 概 況

県内在住者を対象に、例年どおり日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、宣伝美術の七部門にわたって一般公募を行い、入選作に依頼作品および審査員の作品を加えて展観した。出品総点数 368点。

### 出 品 目 錄

#### ◎日本画

佐賀県教育委員会賞	晩秋	吉岡香雲
	静寂	池田淳之助
	湖	柄崎一雄
	潟群遊魚	古川正叙
	杉木立もれ日	納富末由
(無鑑査)	残照の太良	西岡一義
	盤梯の朝	多久竜太郎
佐賀新聞社賞	風ぐるま	円城寺悦子

佳作賞	暮	中山 獢
佳作賞	むつごろう	富崎 長太郎
	阿蘇根子岳	小柳 為次郎
	あじさい	堤 綾子
	暮色	野方 彰
	芳	野中 瑛
	鳩と遊ぶ	鬼崎 恭子
	霧と蜘蛛の巣の稔田	香月 崎太郎
	今日成人	山崎 正也
県展奨励賞	屋根の譜	山口 靖信
	滞船	諸田 和彦
	風神の子が降りてくる	永沼 清四郎
招待	老農	岩永 京吉
"	上高地	立石 秀春
"	華岡青州の妻	立石 春美

### ◎洋画

	ふな市B	下村 康二
	ファンタジア	岡崎 嘉代子
	田園	稻垣 寿夫
	浮立面のある静物	秀島 達朗
	静かなる遠景	富吉 邦彦
	工作機	松隈和雄
	早春の阿蘇	田中 一利
	夕暮れ	木寺 正喜
	物置小屋	鳥銅 基之
佐賀新聞社賞	ひまわりと子供	深草 廣平
	日峯さん	代居 清美
佳作	収穫A	真島 健兒郎
	遠くの方は海の空	野副 秀樹
	教会と港	田崎 恵之
	土器と種子	土井 武夫
NHK賞	作品(A)	服部 大次郎
	作品(B)	久保 武
	スクラップのある風景A	篠崎 忠
佳作	上場水仙	山村 熊雄
サガテレビ賞	しあはせ	成富 鮎子
	御伽噺 その2	田代 典子
	風をうけて	

	雨の日	竹下 雅明
	高原秋色	森谷 宏裕
	季節の手品師	下川 信次
	酒を呑む	中村 憲人
佐賀市長賞	奏 I	深川 直人
県展奨励賞	かわいた流れ	平川 経高
毎日新聞社賞	皮相な観察者たちNo.1	光武 洋
N B C 賞	皮相な観察者たちNo.2	"
	キッチンA	光岡 郁子
	春 I	野中 恵美子
	ジャワ人形B	杉本 弘子
	女の碑A	上滝 泰嗣
	停車場のない切符を買うとさに (1)	堀田 裕子
	天山	西山 正人
	ねむり	先崎 民憲
	葦簀編み	上崎 修一
	売る人	古賀 和勝
	漁港 (呼子)	乗田 勝
県商工会議所連合会長賞	流し	梅崎 真理子
	ひとりぼっち	納富 照雄
	廃船のある風景	坂田 昭男
	ばろ屋II	岡本 留男
	平和を祈るI	山口 平敏
	うたかた	下平 武造
	阿蘇の秋	真崎 团治
	人と愛鳥	前田 雄一
	みこしかつぎ	大川水宮 美子
	田園風景	田中 由美子
	もの想う日々 (4-1)	平方 善
県造形教育研究会賞	もの想う日々 (4-2)	"
(無鑑査)	天と地の間	杉町 徹
(無鑑査)	最後のシープ	松下 四郎
日本経済新聞社賞	みち潮 A	藤崎 健次郎
	秋の枯れはす	江口 孝徳
	牛舎	江山 さよ子
	赤い浮桟橋のある風景	松村 正寿
	黄色い水	吉田 肇雄
	競り合い	古賀 昭雄
	くだものと人物	橋本 美津子

	室内	佐 泊 勝 己
	昭和49年10月 8日	林 田 龍 信
	港町	北 島 美 幸
	飯田晩秋B	光 岡 等 一
佐賀県知事賞	なわ	土 井 智 子
	樂 I	中 尾 和 紀
	雨の日に (I)	金 子 剛 次
	母と子	奥 川 淳 次
	しづまい (A)	安 田 憲 一郎
	室内 II	有 森 有 子
	一日が終って	高 井 田 義 考
	風景 I	永 平 潔 文
	壺市 (2)	納 富 松 哉
	曳山 (II)	峰 隆 隆
	せんたく II	川 本 達 也
	美しき時への決別 I	滝 口 公 子
	つり	大 宅 夫 夫
	風景	小 杉 太 守
県展奨励賞	ある時	杉 本 善 次
招待	女の子	杉 本 好 次
"	緑衣	深 川 一
"	陣羽織と兜	吉 田 進 一
"	日本海	井 手 誠 一
"	川辺の春	江 口 明 一
"	花子の牛	大 久 保 孝 夫
"	クラリネット	久 富 夫 勝
"	娘たち	山 口 吾 勝
"	水田風景	兵 動 健 己
"	ピエロと馬	三 塩 清 己
"	こどもたち	橋 崎 重 観
"	郭公が鳴く	山 口 彦 猛
"	麦	内 山 孝 藏
"	裸婦	村 岡 輝
"	文珠と観音	田 原 雄
"	版画「梵天・陰陽八部衆」	池 田 龍 雄
"	オントリア村通り	吉 田 西 繕

◎影 塑

夏に

増 富 彰 子

唱	増富彰子
想	服巻清之
蒼	"
佐賀新聞社賞 (無鑑査)	座せる女 (おんな)
佐賀美術協会賞 (無鑑査)	エチュード18
佐賀県知事賞	別府の女 (ひと)
	S子の首
	男の道
	恵子の胸像
佳 作	愛子の首
招 待	或る日のH技官
"	草原に
"	可知古
審 査 員	追憶する人
	古賀義治
	武藤三男
	山崎恵一
	佐々木和正
	"
	丸山芳弘
	松本孝治
	山本民二
	成富宏
	緒方敏雄
	原田新八郎

◎工芸

(無鑑査)	マット壺	野田務
県展奨励賞	朝日	田中政臣
N H K 賞	灰釉花器	井上裕由
	緑彩釉扁壺	井手石男
	望	小川彦泰
	ロウ抜き木葉紋鉢	添田信彦
	鉢	江口宗山
	干柿	森栄子
	吳須染深鉢	緒方明彦
	海円	辻毅彦
	ら線引深鉢	佐藤正巳
	深鉢	佐藤喜代子
	染付花器	久保田末雄
朝日新聞社賞	鉄絵草文鉢	波多野洋壯
	鉄搔落し壺	勝田文博
	青白磁花器	照井剛敏
	緑の窓	西山ちはる
	欹び	溝上秀次
	白磁壺	中村清見
	稻穂文花瓶	酒井田正
	霞 (かすみ)	坂本義弘
唐津市長賞	鉄砂黒釉流紋陶鉢	丸田正美
	白釉黒流大皿	井上幸磨

	金泥釉大皿	井上 健 次
	白磁セン影高壺	桟 秋 正
県教育委員会賞	放流	松 尾 利
	渓谷	蔵 樂 恵
県展奨励賞	秋 (あき)	藤 井 進
	深鉢花開	藤 井 明
県議会議長賞	釉裏金彩 「黄いろの壺」	小 野 子
	染付網目文深鉢	小 野 珀
サガテレビ賞	白磁鎬影壺	小 野 瓷
	布目染付壺 (流雲)	宮 崎 男
西日本新聞社賞	海の館	宮 崎 輔
	紋華壺	宮 崎 浩
	面取壺	鈴 田 光
	しののめ	西 川 純
	白磁花瓶	中 尾 健
	佐賀錦帯〆 (虹)	庄 村 六
	〃 (雪)	樋 渡 子
	青磁搔落象嵌花紋深鉢	石 坂 子
	鉄絵草文花器	長 濱 正
	組紐帯〆 (縲)	佐 藤 波
佐賀新聞社賞	青い星	佐 藤 隆
	型絵染着物 「葵文」	大 串 チエ子
	樹象	吉 田 彦
	和秋	平 坂 純
	燐	山 本 尋
	秋とき	持 丸 子
		田 中 一
		東 島 広
		吉 田 彦
		中 里 重
		大 丸 辰
		酒 井 田 柿 右 衛 門
		草 場 正
		県 上 有
		井 上 二
		江 口 美
		青 木 山
		辻 貞 龍
		今 泉 詔
		今 泉 今 右 衛 門

招待	木版摺更紗着物 みのり	鈴 田 照 次
〃	黒陶 (こくとう)	中 里 重 利
〃	白象	大 丸 辰 男
〃	濁手花文壺	酒 井 田 柿 右 衛 門
〃	湖水	草 場 正 人
〃	童子と童女	県 上 有
〃	白磁花形花器	井 上 二
〃	影葉紋飾鉢	江 口 美
〃	豊延	青 木 山
〃	涛	辻 貞 龍
〃	色絵墨はじき草穂文鉢	今 泉 詔
〃	色鍋島草花文鉢	今 泉 今 右 衛 門

## 招 待

"

唐津茶盃  
青唐津叩き印花纹壺中里宗白  
中里太郎右衛門

## ◎書

袁宏道詩	福島貞治
巖	角田 隆宣
久雨	吉村 キヨ子
福寿	山口 政人
能画四壁	"
禪語	山口 和子
(無鑑査)	峯 平
寶馬	滝口京子
尾崎喜人詩	徳永万佐子
桂林	"
わがやどの	池田 正
獨坐敬亭山	蘭 芳雄
唐詩	小崎由美子
六言対句	板本 実
対牛鼓簧	鍵山 壱代子
吳昌碩詩稿	横田 正夫
白樂天詩三首	塚元精子
ふじのやま	川打恒子
太虛清白	最所かずえ
和歌	平山俊子
西日本新聞社賞	山崎高代
夕ざれば	吉岡文恵
和歌二首	本村美恵子
花薄	玉置紫江子
N・H・K賞	永尾鈴子
佳 作	岩崎信夫
文部大臣賞 (県展賞) (悟竹頸彰会賞)	高尾浩正
奨励賞	永瀬窓石
秋霧	前田幽玄
杜牧の句	野田栖石
山水	山口流芳
唐詩	清野道子
蘇東坡の詩	久富晴子
人をおもふ	米倉信子
童心	吉川義美
崔子五座右銘	
李賀の詩	
柿本朝臣人磨の歌	
劉禹錫詩	
江上吟	
如聽仙樂耳暫明	

## 奨励賞

県議会議長賞  
佐賀新聞社賞

## 佳作

鳥栖市長賞

(無鑑査)

招待

"

審査員

游魚出聽  
清酌嘉羞  
万葉の歌  
秋草  
和歌一首  
夕月夜  
かたわらに  
寒山の詩  
杜甫の歌  
古今集抄  
延寿萬歳  
孟淑卿詩  
陶潛の詩  
五言律詩  
韓愈詩  
劉長卿詩  
漢詩  
張九齡之詩  
李商隱の詩  
愚  
逢  
花  
蘊麗  
岑参の詩  
高青邱の詩  
紅爐  
「其」による  
独坐觀心能見性  
博達

陳廣雲  
佐々木道正  
松永豊治  
橋本縫子  
藤島ミホ  
野中春江  
野中正陽  
古賀諒舟  
岩永利彦  
古賀紅彦  
川原保彦  
松本節子  
蒲原直子  
中村子徳  
杉町俊徳  
山口俊夫  
丸山子子  
光吉伸子  
伊東節子  
稻葉祥子  
千喜田くに子  
杉町哲子  
山口信行  
山口流水  
野田紫城  
平川朴山  
土肥禎利  
小坂奇石

## ◎写真

多久市長賞(無鑑査)

読売新聞社賞

佳作

"

県文化団体協議会長賞  
(無鑑査)

主待  
悍 I  
閉ざされた……  
千柿  
無音のオブジェ  
わずかの草のような手  
猫 I  
猫 II

尾崎政和  
左迫間信太郎  
山本和大  
伊東重悦  
嘉村進  
"  
副島次郎  
副島次郎

	鵜殿の石仏	碇 富治
	福富風景 II	坂 口  礼 子
	静寂	藤 田 義 人
	あわ雪	内 田 貞 巳
	うみねこ	藤 川 英一郎
	不安な情景	"
鹿島市長賞	now and future	中 島 実
伊万里市長賞	家路	鷺 崎 哲 雄
"	白いふとん	"
	日本の心	古 賀 誠 吾
	木曾路	江 口 孝 幸
	里	佐々木 茂 勝
	通知表	平 方 寛九郎
	案子 (かかし)	弟子丸 等 獻
	或る風景	小 柳 獻
県展奨励賞	Baby dall (ベビードール) の詩 (1)	久 保 光 男
"	Baby dall (ベビードール) の詩 (2)	"
	惜春 B	谷 川 菊 次
	群	吉 田 徹
	主はどこえ	池 田 義 信
	夜の心象 II	村 山 康 彦
佐賀新聞社賞	黒くなった青い鳥	佐 藤 孝 幸
佳 作	小さな生命シリーズ「柿」	木 塚 行 夫
	みち	中 島 正
	叱られた小猿	井 崎 雄 正
武雄市長賞	デコルトの迷想	成 富 幸 雄
	樹もれ日	福 田 明
	悪友	馬 場 栄之助
佳 作	子鳩の死	伊 東 謙 市
県教育委員会賞	白馬 1	川原田 盛 人
"	白馬 2	"
招 待	去来する	音 成 三 男
"	托鉢僧たち	最 所 厳
"	協会の見える丘	藤 田 正 次
"	アンニュイ	古 川 公 夫
"	もずのはやにえ	宮 崎 宏
"	海を渡る山笠	ハツ峰 陽二郎
招 待	樹	百 田 正 之
"	待網	安 永 真 一

〃  
〃  
審査員

夏より  
白い部屋

横尾尚男  
窪田功  
森永純

◎宣伝美術

佳作

古典への誘い  
からつくんち  
51年佐賀若楠国体  
混乱する社会への不安

古川紀子  
佐藤知佳子  
川村正  
杉原茂

奨励賞

ALL YOUNG FOLKSONG FESTIVAL  
カレンダーのためのイラストレーション  
カレンダーのためのイラストレーション試作  
シプシー占い  
薬隱の里  
かさじぞう  
佐賀の古面  
交通違反→事故  
OCCULT悪魔の薔薇  
日本戦国史  
肥前鬼火慕情（おぼこかんざし録）  
大きな森の小さな家

原口実世子  
稻富ゆう子  
渡辺康子  
辻景子  
横谷孝史  
浦川洋  
江頭千恵子  
佐藤徳之  
三浦和人  
小濱さゆみ  
伊藤文雄  
筒井孝  
佐賀県下の重要な文化財一仏像  
レコードジャケット「ニューフォークベスト」

佳作

江戸時代の美術  
大きい魅力は貯蓄も同じ!!  
貯蓄の実りは明日への幸わせ  
カレンダー試作

鳥越義則  
山脇好博  
小笠原礼子  
大宝拓雄  
平井三和子  
松永さつき  
久保正敏

県知事賞

有田焼・古伊万里文様  
公害ポスター『あき缶はくずかごに』  
アートフェスティバル  
ANTI・WAR

志水博行  
渕野博己  
諸石重利  
江口亮二  
馬場直美  
峰松登志子  
林加寿子

県議会議長賞

レコードジャケット（どんぐりころころ）  
レコードジャケット（かたつむり）

中野彦子  
沖田良典  
坂口一佳

奨励賞  
(無鑑査)

レコードジャケット（かにのとこや）  
唐津んやまでこ  
書籍ポスター（円陣を組む女たち）  
伊万里トンテントン  
書籍ポスター『私の詩集、  
ガン検診ポスター

中野千佳子  
沖田代子  
坂口靖雄  
古川千佳子  
滝口靖雄

商工会議所連合会長賞

	童子舞天狗拍子	小路 久男
	豊年満作。美酒有此	喜多 正子
	カーペンターズレコードジャケット	草場 龍介
武雄市長賞	心模様	滝口 利文
	レコードジャケット	大宅 富夫
	唐津曳山 Pait3	筒井 清貴
佐賀新聞社賞	帝王の世紀	前田 由美子
貯蓄推進委員会長賞	貯蓄推進	蒲原 和子
	貯蓄推進	多良淳二
NBC賞	書籍ポスター	光岡 幸子
	貯蓄推進ポスター	宗間田 俊朗
	公告	岡田 宏子
招待	肥前鹿島祐徳稻荷神社	筒岡 勝
"	増大する核への不安	中村 公久
"	ポスター「有田陶器市」	宮原 栄作
"	カレンダー	小杉 道久
審査員		藤重信

### (9) 松方コレクション展

主催 国立西洋美術館、佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館、佐賀新聞社

会期 昭和49年11月16日～12月1日

会場 3号、大展示室

観覧料 個人

大人 200円 大・高生 150円 中・小生 100円

団体

大人 150円 大・高生 100円 中・小生 50円

#### 展示概況

国立西洋美術館所蔵松方コレクションの巡回展である。今回は絵画60点、彫刻20点の総数80点の出品であった。本県では直接西洋美術に触れる機会が少なく、当展は多大の反響を呼び、観覧者総数50,379名にのぼった。

#### 出品目録

##### ◎絵画

作 者	作 品 名	規 格 尺 法	製作年
アマン・シャン、エドモン・フランソワ	本を読む女たち	油彩・カンヴァス 130×100cm	
アンドレ、アルベール	マルセーユのフティ・ニース	〃 82×100	
ペナール、ポール・アルベール	横たわる裸婦	〃 71×141	1947(?)
プランシュ、シャック・エミール	若い娘	〃 200×128	

ブラングイン, フランク カロリュス・デュラン, エミール オーギュスト	松方幸次郎氏の肖像 母と子 水差しとスープ容器 ムーラン・ルージュの女たち 夕暮の海 悲しみ 行列 肌ぬきの女 もの思うシプシー女 波	木炭・パステル・紙 47.5×37 油彩・カンヴァス 190×130 水彩・紙 12.3×21.5 油彩・カルトン 36.5×50.5 〃 50×77 エッチング 50.5×65.2 油彩・カルトン 68×101 油彩・カンヴァス 80×65 〃 50×60 〃 72×92	1877 1890 1892 1897 1908~09 1913 1867 1869 1870
セザンヌ, ポール コッテ, シャルル 〃 〃 クールベ, ギュスターヴ 〃 〃 ドラクロフ, ウジエーヌ ドニ, モーリス 〃 〃 ドヴァル, ピエール・ジャン・シャルル ドンゲン, キース・ヴァン デスペニヤ, ジヨルジュ エッティ, ウィリアム ファンタン・ラトゥール, アンリ ウォラン, ジャン・ルイ フジタ, レオナール・ツグハル 〃 ゴーガン, ポール ゴッホ, ヴィンセント・ヴァン エンネル, ジャン・ジャック ローラン, エルネスト・ジョセフ ルバスク, アンリ ルブル, シャルル・アルベール マルケ, アルベール 〃 マルタン, アンリ・ジャン・ギョーム 〃 メナール, マリー・オーギュスト・ エミール・ルネ ミレー, ジャン・フランソワ モネ, クロード 〃 〃 〃	ムーラン・ルージュの女たち 夕暮の海 悲しみ 行列 肌ぬきの女 もの思うシプシー女 波 聖母の教育 トンケデックのテラス 水浴 踊る女たち 聖女ジャンヌ・ド・シャンタル 回教風の中庭 ターバンの女 浴女 横たわる裸婦 聖アントワーヌの誘惑 お目見え 裸婦 自画像 海辺に立つブルターニュの二少女 ばら 婦人像 テラスの二人の婦人 ハンモック セーヌ河(ラ・ブーヌ附近) 坐る裸婦 オロンヌの浜 花と泉水 自画像 松林 春(ダフニスとクロエ) 並木道 ラ・ロシュ・ギュイヨンの道 舟遊び ウォータルー橋(ロンドン)	油彩・カルトン 36.5×50.5 油彩・カルトン 50×77 エッチング 68×101 油彩・カンヴァス 80×65 油彩・板 75×50 油彩・カンヴァス 115.5×120 油彩・カンヴァス 174×78 木炭・パステル 65×41 油彩・カンヴァス 73×93 油彩・カンヴァス 65×54 油彩・カンヴァス 101×65 油彩・カルトン 48.5×68.5 油彩・カンヴァス 63×83.5 油彩・麻布に紙貼 50×61.5 ペン・墨・紙 41×71.5 油彩・紙 27.5×22.3 油彩・カンヴァス 92×74 油彩・カンヴァス 33×42 油彩・カンヴァス 127×71 油彩・カンヴァス 118×102.5 油彩・カンヴァス 65.5×81.5 油彩・カンヴァス 46×86 油彩・カンヴァス 73×60 油彩・カンヴァス 60×73 油彩・カンヴァス 81.5×130.5 油彩・カンヴァス 55×64.5 油彩・カンヴァス 50×70 油彩・カンヴァス 231.5×131.5 油彩・カンヴァス 82×46 油彩・カンヴァス 60×70 油彩・カンヴァス 145×132 油彩・カンヴァス 65.5×100.5	1890 1892 1897 1908~09 1913 1920 1922 1923 1926 1926 1889 1889 1922 1923 1912 1921 1865 1865 1880 1887 1902

モンティセリ, アドルフ・ジョゼフ・トマス	レ・マルティング	油彩・板	34×51.5	
ピカソ, パブロ	坐る女	水彩・紙	33×23	1920
ピサロ, カミーユ	立ち話	油彩・カンヴァス	65×54.5	
ク	冬景色	ク	52×81	1873
ビュヴイス・ド・シャヴァンヌ, ピエール	貧しき漁夫	ク	105×68	1883
ルノワール, ピエール・オーギュスト	木かげ	ク	56×46	1880
ロダン, オーギュスト	世界を導くアムールたち	エッチング・紙	20×25	1881
ク	ベルローナ	ク	15×10	1883
ク	ユゴー (顔二つ)	ク	22×16	1884
ク	蛇を巻く女男	水彩・紙	31.5×21.5	
ク	カンボジアの女	ク	31×22	1889
ロール, アルフレッド・フィリップ	木かげ	油彩・板	75×95	1905
シニャック, ポール	漁船	水彩・紙	28×44	
ク	オンフル	ク	28×38	
トワールーズ・ロートレック, アンリ・ド	写真家セスコー	石版・紙	60×80	1894
ク	マルセル・ランデの胸像	ク	34×26	1895
ク	女優	ク	29.5×24.2	1895~96

### ◎影 刻

ブルーデン, エミール・アントワーヌ	マポロンのマスク	ブロンズ	50×22×23	1900
ク	弓をひくヘラクレス	ク	63×60×28	1909
ク	バッカント	ク	83×52×22	1909
ク	瀕死のケンタウロス	ク	72×52×22	1914
マイヨール, アリストイード	イル・ド・フランス	ク	167×47×49	1925
ク	〈アルモニー〉のための習作	ク	152×42×36	1940~41
ロダン, オーギュスト	鼻の潰れた男	ブロンズ	27×20×22	1864
ク	青銅時代	ク	181×70×66	1876
ク	考える人 (½等身丈)	ク	71×45×60	1880
ク	J.Pローランスの胸像	ク	60×40×33	1881
ク	私は美しい	ク	70×32×33	1882
ク	三人の踊り子	ク	14×30×15	1882
ク	抱きあう子供たち	大理石	44×26×26	1883
ク	ヴィクトル・ユゴー	ブロンズ	45×25×26	1883
ク	立てるフォーネス	ク	60×26×23	1884
ク	接吻	ク	87×51×55	1886
ロダン, オーギュスト	美しかりしオーミエール	ク	50×31×24	1888
ク	苦悩	ク	118×9×9	1890
ク	バルザック	ク	106×45×38	1896
ク	ハナコの頭部	ク	17×13×14	1908

## (10) 第15回佐賀県学童美術展

主 催 佐賀県造形教育研究会、佐賀県立博物館

会 期 昭和49年12月5日～12月8日

会 場 大展示室

観覧料 無料

出品物 水彩画、デザイン 800点

### 展示概況

本展覧会は県下幼小中学校の美術振興を目的として創立されたものであり、子供の美術展覧会としては県最高のもので、美術教育の現場に親しまれ、順調な発展をとげ、今回で第15回を迎えるに至った。

本県の学童美術教育の発展のため、多くの人々に鑑賞してもらい学童美術の理解とその向上に寄与することが出来た。

## (11) 第24回佐賀県高等学校美術展

主 催 佐賀県高等学校美術連盟、佐賀県立博物館

会 期 昭和49年12月18日～12月22日

会 場 大展示室

観覧料 無料

出品物 油彩、水彩約 200点

## (12) 第18回佐賀大学美術科総合展

主 催 佐賀大学教育学部特設美術科、佐賀県立博物館

後 援 佐賀県教育委員会、佐賀新聞社、S T S サガテレビ、N B C 長崎放送

会 期 昭和49年12月10日～12月15日

会 場 大展示室

観覧料 無料

### 出 品 目 錄

◎絵 画		人物	1 井 元 洋 子 F 50
室の中から	1 野 副 秀 樹 F 50	裏窓のある風景	1 藤 本 恵 三 F 50
	1 紫 田 孝 利 F 50		1 八 谷 英 治 F 60
樂 友	1 中 尾 和 紀 F 60	煙突のある風景	1 久 松 孝 行 F 40
は す 街	1 江 利 角 与 志 子 F 50	裸婦 1	1 坂 田 賢 次 郎 F 20
	1 野 村 陽 子 F 50	迫 害	F 50
	1 高 木 祐 子 F 50	生 物	1 菅 本 量 子 F 50

雨	1 藤森茂次 F 30	秋の虫は	3 深川直人 変80
人物	1 前門清一郎 F 10	記念撮映	F 50
人物	1 寺戸育子 F 10	風景1	3 萩浦裕 F100
人物	1 船越多美子 F 50	風景2	F 30
1974年11月18日	1 林田龍信 F 50	秋	3 内田実 F 50
阿蘇	1 内田勝弘 F 60	夏	F 25
放置		倉	F 30
作品F	1 河野博行 F 80	老	F 20
人物	1 榎木茂 F 40	はと	3 永田秀孝 P 30
農家と牛	1 筒井知徳 F 80	こい	P 30
	1 内田徳二	景	P 100
風景(水彩)	1 出田均 B 2	堤防の休日	3 立川忠市 F 80
模写	1 坂口和彦 F 20	two cars	3 大石恵三 F 50
	1 徳永武洋	室内	3 中村好美 F 80
	1 田中朝子 F 30	パルタイ	3 堀辰雄 P 20変
空と木と	2 緒方俊昭 F 100	冬の風は寒い	P 20
潟のある村1・2	2 荒木考典 F 60	部屋の中	3 溝口幸子 F 50
		SELF PORTLATE	3 国本英之 F 30
姉像	2 平松宗子 F 50	景	3 松本孝治 P 40
季節の中で	2 光行成子 F 80	作品	3 山田政昭 F 60
人形その1	2 永田ひとみ F 60	静物	4 谷口輝久 F 6×2
ハゼつりの翁	2 山田稔 F 80	自画像	F 10
トルソー	2 石丸和人 F 20		4 松雪亮子 F 100
作品 1974549			4 小田原久生 F 100
風景I	2 吉村武弘 F 40	作品1	4 鶴崎正良 F 15
道	2 松尾直樹 E 50		4 宮崎誠一
	2 大歯雄司		4 八塚桂 F 60
コスモス	2 杉野京 F 30	牛	4 山本さよ子 F 100
しらべ		仮装する	4 中村憲次 F 100
風景	2 枝尾憲政 F 50	機関庫	4 永田淳 F 50
黒猫とトンボ	2 井上信宏 F 50	水蓮	4 西岡一義 日本画
背い世界に	2 岩本幸枝 F 50	◎彫塑	
作品I	2 古賀美子 F 30	首・男首・女	3 松本孝治 2.
作品I	2 石村昌子 F 80	首1・2・3・4・5	3 松尾活二 5.
今は	3 下田真一郎 F 80	首	3 吉武加代子
葉(風景)	3 岩永敏彦 F 100	首	3 佐々木和正
作品A・I・イ・ア		作品I・II・III	4 山崎恵一 3.
作品	3 佐々木和正 F 60	作品α	専丸山芳弘 170cm
ポットのある部屋		作品β	90cm
	F 100		

◎デザイン		Lief	2 石村昌子 F 30
イラストレーション	1 蒲原ななみ A 2・B 2	染ネクタイと小物	3 下川洋子
ポスターⅠ・Ⅱ	2 岩崎勇 B全×2	作品A	F 40
ポスターⅠ	2 大坪一朗 B全×1	流水	3 西村幸子 パネル
色彩効果による	3 坂井弘樹	鳥(型染パネル)	B 2
四季のコンポジション	B全×3	スクリーン(型染)	3 岩重佳代子 2.5m×90cm
日本の顔	3 佐々木厚仁 50cm×50cm×6	キジール壁画の人物(型染)	50cm×37cm
試作	4 永野規子	帯(型染)	3 北村悦子 F 50
構成Ⅰ・Ⅱ	4 福原正明 B全×2	構成Ⅰ・Ⅱ(型染)	パネル
	4 白井美栄子 2	麦の詩	4 楠渡順子 パネル
オブジェ	4 古賀仁朗	作品D	4 萩原工子
	4 安東秀幸	◎窯芸	
◎染色工芸			4 石橋国男
生	2 永田ひとみ F 30	作品WX	4 岩田義実
			4 原史朗
◎金属工芸		「自画像」習作	3 下川洋子 25cm×25cm

### (13) 佐賀の自然、風土と植物写真展

主催 佐賀植物友の会、佐賀県立博物館

会期 昭和50年1月12日～1月19日

会場 大展示室

観覧料 無料

#### 展示概況

植物友の会が主になって撮影した写真を、系統的に分類し、佐賀の自然を一般に紹介するための展示。主な項目は、

##### I 佐賀の自然と風土

- 美しい松原、虹の松原、相賀の松原
- 雄大な高原、大野原
- 郷土の山、脊振山、天山、作礼山他
- 渓谷、多良、羽金山他
- 紅葉、多良岳、脊振山
- 武家屋敷に残る石垣、伊万里、唐津、佐賀市内
- 風物 ヒシ、ハゼ、稻小穂

## II 貴重な自然林

- 海岸暖帯林 田島神社、馬渡島社
- 低山地暖帯林 唐泉山、山ノ寺
- 中間帯林 経ヶ岳、八幡岳
- 温帯林 脊振山

## III 濡原と湿原植物

- 樺原、平野沼（天川）上峰  
植物（サワギキョウ、トキソウ、モウセンゴケ、ミミカキグサ他）

## IV 佐賀の誇る植物

クス、アオモジ、リュウゾウジャナギ、ハガクレカナワラビ、クロカミラン、サザンカ

## V 四季の花

- 春 マンサク、アオモジ、エビネ、コバノミツバツツジ、ノウルン
- 夏 ノハナショウブ、サギソウ、ハマオモト
- 秋 シチメンソウ、ダルマギク、シマカンギク
- 冬 カンラン、サザンカ、スイセン

## VI 路傍の植物（搬入植物）

ツクシゼリ、ツルフジバカマ、アソノコギリ、ワレモユウ、ヒメアザミ

## VII 滅びゆく植物

ウンラン、ミツガシワ、エヒメアヤメ、ヌマガヤ、シラカワスゲ

## VIII 天然記念物

1. 千石山サザンカ自生北限地
2. 小川内の杉
3. 白角折神社の楠
4. エヒメアヤメ自生南限地
5. 下合瀬の大カツラ
6. 市川の杉
7. 佐賀城跡の楠
8. 与賀神社の楠
9. 虹の松原
10. 広沢寺のソテツ
11. 高串のアコウ自生北限地
12. 川古の楠
13. 黒髪山のカネコシダ自生地
14. 稲佐神社の楠
15. 海童神社の楠
16. 青幡神社の楠
17. 有田のイチョウ
18. 普明寺のキンモクセイ
19. 唐泉山のシイ林

20. 嬉野の大茶樹
21. 田島神社の暖地性植物群叢

#### IX 自然への祈り（大木信仰）

- 川古の楠
- 武雄の大楠（12畳敷）

国相寺の楠

#### X 佐賀県植生図

会期中は佐賀の自然を愛する人々が訪れ、950名が観覧した。最終日は植物友の会の総会と研究会が同会場で行なわれた。

### (14) 新遺跡資料展

主 催 佐賀県立博物館  
会 期 昭和50年1月25日～2月23日  
会 場 大展示室  
観覧料 常設展と併設のため別途徴収しなかった。

#### 展 示 概 要

昭和49年には、県内22ヵ所で遺跡の発掘調査が実施され、原始・古代の貴重な遺物や遺構が多数発見された。

中でも弥生時代の把頭飾の発見や、奈良時代の国分寺跡発掘調査は特筆されるべきものである。国分寺跡調査では各種の古瓦や、基壇の版築が確認され、西門跡や寺域をめぐる周溝・築地塀跡が認められて方2丁の寺域が明らかとなるなど多大の成果を得ている。

そこで、県下市・町・村教育委員会の協力を得て、郷土の原始・古代文化の理解と文化財保護意識の高揚に資するために、これらの新発見資料を一堂に展示した。

展览会中は、県内外から研究者をはじめ一般の観覧を得た。なおこの展览会に紹介した遺跡の解説と写真を付した冊子「新遺跡資料展」を刊行し、小・中・高校と関係機関に配布した。

#### 出 品 目 錄

##### ○縄文時代

- 西有田町・坂の下遺跡出土品（中期の各種土器・石器、木の実）
- 鹿島市・納富分遺跡出土品（後・晩期の土器・石錘、十字形石製品、短冊形石器、剝片鏃、他）
- 呼子町・小川島貝塚出土品（後・晩期の土器・石錘、石斧、魚の骨、動物の骨、他）
- 佐賀市・大門遺跡出土品（後期の十字形土製品）
- 相知町・寺の前遺跡出土品（後・晩期の土器・石刀、剝片鏃、他）

##### ○弥生時代

- 神埼町・荒堅目貝塚出土品（把頭飾、石劍）
- 三田川町・二本黒木貝塚出土品（把頭飾、器台、石包丁、石斧、他）
- 多久市・牟田辺遺跡出土品（中期の各種埋葬用甕棺、壺棺、各種石器、器台）
- 東脊振村・三津永田遺跡出土品（内行花文鏡）

- 東脊振村・大曲遺跡出土品（内行花文鏡）
- 神埼町・日の隈山西北山麓出土品（不明の鏡片）

○古墳時代

- 北茂安町・妙覺院境内遺跡出土品（各種武器、各種馬具、装身具）
- 鳥栖市・本川原遺跡出土品（各種土器）

○歴史時代

- 大和町・国分寺遺跡出土品（各種古瓦）
- 小城町・寺浦廃寺遺跡（各種古瓦）

### (15) 肥前名刀展

主 催 佐賀県立博物館

後 援 佐賀県刀剣会

会 期 昭和50年3月2日～3月23日

会 場 大展示室

観覧料 個人

大人 100円 大・高生 50円 中・小生 30円

団体

大人 80円 大・高生 40円 中・小生 20円

講演会 日時 昭和50年3月15日 13時30分～15時30分

会場 佐賀県立図書館講堂

演題 肥前の刀と鐔

講師 刀剣研究家 福永醉劍

#### 展 示 概 況

日本刀は、もともと武器としてつくられたことはいうまでもないが、時代の推移とともにその役割も大きくかわり、現在では美術工芸品として愛好され、鍛鉄のすぐれた文化財として新しい生命を持ち続けている。

肥前では、江戸時代の初めから刀工忠吉一家及びその門人によって、数多くの名刀が作られてきた。これらの肥前刀は、新刀としてつくりが豪壮で、実戦的なものとして尊ばれ刀剣史上すぐれたものとして高く評価されている。そして風格高い独自な作風は、見るものの魂にせまってくる凜々しさを持っている。

当館では肥前忠吉各代の作刀を初め、その門人が生んだ名刀70振、現代刀11振、肥前鐔・小道具類65点、文献等23点を一堂に展観し、肥前刀のもつすぐれた芸術性を紹介するとともに刀剣に対する理解と認識を深めてもらった。

#### 肥前名刀展出品目録

(1) 刀 剑		○新刀・新々刀			
(番号)(種類)	(銘)	(長さ)(刀工)	1 刀	肥前國忠吉	75.2 1 忠吉
○古 刀			2 刀	肥前國忠吉	68.7 ノ
1 長巻 正平十肥州末貞		62.6 末貞		慶長五年八月吉日	

3 刀	肥前国忠吉 慶長六年八月吉日	67.9	〃	24 刀	肥前国住近江大掾藤原忠広 万治元年八月吉日	72.2	2 忠広
4 刀	肥前国忠吉	65.2	〃		頤主肥前国住多久美作守藤原茂辰室氏女		
5 刀	肥前国忠吉	73.0	〃	25 刀	肥前国住近江大掾藤原忠広	74.3	
6 刀	肥前国忠吉	74.4	〃	26 脇差	近江大掾藤原忠広	56.6	〃
7 刀	肥前国忠吉	74.5	〃	27 刀	肥前国住近江大掾藤原忠広	71.5	2 忠広・ 3 忠吉合作
8 刀	肥前国忠吉(重要美術品)	70.9	〃		同國住人陸奥守忠吉		
9 刀	肥前国住人忠吉作 慶長廿年八月吉日	69.2	〃	28 脇差	近江大掾藤原忠広	53.3	〃
10 脇差	肥前国住人忠吉作 慶長廿年八月吉日	35.0	〃	29 刀	肥前国住陸奥守忠吉	73.2	3 忠吉
				30 刀	肥前国住近江大掾藤原忠吉	71.6	4 忠吉
11 脇差	肥前国住忠吉 生年四十八歳之作	43.5	〃	31 脇差	近江守忠吉	46.5	5 忠吉
12 脇差	肥忠吉 剗物藤原宗長(花押)	39.5	〃		宝暦八成寅九月吉日奉納 鍋島阿波藤原茂訓		
13 刀	肥前住忠吉	73.9	〃	32 刀	肥前国住近江守忠吉	66.8	6 忠吉
14 刀	肥前国佐賀住橋本新左衛門尉忠吉作 元和七年八月吉日	72.9	〃	33 槍	肥前国住近江守忠吉	11.5	〃
					文化七庚午年八月吉日成松万		
					兵衛尉信久忠需作之		
15 刀	肥前国住人源忠吉	72.1	〃	34 刀	肥前国住近江守忠吉	70.9	6 忠吉・ 7 忠広合作
16 刀	肥前国住藤原忠広 寛永八年八月日 (佐賀県重要文化財)	75.6	〃	35 刀	同息橋本忠左衛門尉忠広 文化十一甲戌八月吉日		
17 短刀	肥前国住藤原忠広(金象嵌) 閑叟所持 寛永八年八月日 (佐賀県重要文化財)	29.6	〃	36 刀	肥前国忠吉	70.8	8 忠吉
					天保十四年卯八月日		
					應成松氏之需		
18 刀	肥前国住武藏大掾藤原忠広 寛永八年二月吉日 (金象嵌) 比刃露寛文五年十一月八日	72.3	〃	37 脇差	肥前国新左衛門尉藤原忠吉	73.0	〃
					弘化丙午秋八月吉日		
					弘化丙午秋八月吉日作之		
19 刀	武藏大掾藤原忠広	68.5	〃	38 短刀	肥前国忠吉	27.5	〃
20 脇差	肥前国住橋本平作 二月吉日	37.6	2 忠広	39 刀	萬寿無疆		
					肥前国忠吉	75.1	9 忠吉
21 剣	肥前国住藤原忠広 寛永十三丙子白二月吉日	58.0	〃	40 脇差	肥前国忠吉	39.4	〃
					肥前国住人吉信	70.6	吉 信
					41 刀		
					42 脇差	肥前国土佐守藤原忠吉	31.6
						土佐忠吉	
					43 短刀	源吉房	35.0
						吉 房	
					44 短刀	切物藤原吉長	27.7
22 短刀	肥前国住藤原忠広	29.3	〃			吉 長	
23 刀	肥前国住近江大掾藤原忠広 正保五年二月吉日	76.8	〃	45 脇差	肥前国河内大掾藤原正広	38.2	1 正広
					46 刀	肥前国河内守藤原正広	75.2
						2 正広	
					47 刀	肥前国河内守藤原正広	74.0

48 刀	肥前国河内守藤原正広	69.3	〃	○現代刀
49 刀	(金象嵌) 墓法印遺物為打黃金差添被 領中山氏直守	1 刀	於東都肥前国忠次作之	70.2
	貞享式年丑四月廿七日二ノ胴切落山野	2 刀	昭和十七年仲秋 (多久 中尾三治郎)	
	勘十郎久英 (花押)	3 刀	肥前国能吉見住一吉作	71.2
	肥前国河内守藤原正広	75.2	〃	昭和甲寅年二月吉日 (多久 中尾一吉)
50 脇差	肥前国河内守藤氏正広	62.2	〃	肥前国唐津住人正次作之
51 刀	肥前国正広	70.0	9 正広	71.6
52 刀	肥前一文字出羽守行広阿 蘭陀鍛	75.0	1 行広	昭和四十七年九月吉日 (唐津 田口喜一)
53 刀	一肥前国出羽守藤原行広	70.6	2 行広	肥前国白竜子忠孝作
	元禄十六年八月吉日			75.9
54 脇差	肥前国一文字行清 以真鍛造之	57.0	1 行清	昭和四十七年十一月 (肥前町 井上慶昭)
			6 刀	肥前国忠寿作
55 刀	肥前佐賀住国広	71.4	國広	70.5 昭和五十年一月日 (肥前町 井上久)
56 脇差	大和大掾藤原兼広	51.9	1 兼広	7 刀 肥前国兼元
57 刀	肥前国住遠江守藤原兼広	80.3	2 兼広	65.1 (佐賀 元村兼作)
	青木氏藤原永英		8 刀	肥前国保則
	享保三年八月吉日			72.3 昭和四十九年十一月 (佐賀 元村保廣)
58 刀	肥前国住藤原広貞	71.9	2 広貞	9 刀 肥前国住保廣謹作
59 刀	肥前国住藤原広定	71.5	広定	77.5 (川副町 元村保)
	以真鍛作之		10 刀	肥前国住保次作
60 刀	肥前国住人広則	70.5	1 忠国	70.5 昭和四十七年六月吉日
61 脇差	播磨大掾藤原忠国	52.3	〃	. (川副町 元村保秀)
62 脇差	(抱牡丹文) 播磨守藤原忠国	56.1	2 忠国	11 短刀 正廣 69.6
	(16葉菊文) 天和三年二月吉日 以南蛮鉄作			(川副町 野田初次)
63 刀	肥前国佐渡掾藤原宗平	69.4	1 宗平	(2) 肥前鐔、小道具
64 刀	肥前国住伊予掾源宗次	71.1	1 宗次	○鐔
65 刀	肥前国住源正次	69.3	2 宗次	1 鉄地丸形鋤下彫日足文図 肥前吉信
66 刀	肥前住源宗次鍛之試割鉄甲	69.5	3 宗次	2 鉄地八角形亀甲文図 肥州住忠清作
67 短刀	源宗次造之	23.1	8 宗次	3 鉄地木瓜形肉彫象嵌雲龍図 肥前住忠貞
	為古川雅友			4 鉄地八角形鋤下肉彫吉梅図 肥之前州忠長
	慶應丁卯秋			5 鉄地丸形鋤彫雨竜図 肥前住忠長八十一茂鑄
68 刀	肥前国藤原吉包	73.6	吉包	6 鉄地丸形肉彫象嵌遠山橋図 肥州住広国
	明治元年十一月日			7 鉄地丸形肉彫象嵌旗軍配図 肥前国住勝貞作
69 脇差	唐津住高田河内守源本行	48.3	2 本行	8 鉄地丸形透海鼠図 河内守本行 (裏) 刀作人
	寛保三歳三月日			9 鉄地丸形高内彫色絵人物図 肥州住家廣
70 脇差	唐津住正景	39.5	正景	10 鉄地丸形肉彫色絵釣人秋景図 肥前住忠行
	文化十四年二月日			11 鉄地糸巻木瓜形鋤下彫梵字図 近江守忠吉

- 12 鉄地木瓜形亀甲文図 肥州住勝真作
- 13 鉄地丸形肉彫釣舟遠山図 肥前国住忠行
- 14 鉄地木瓜形肉彫亀甲文瓜図 肥前国住忠行(裏)  
天保十三八月日
- 15 鉄地丸形肉彫秋景図 肥前国忠行
- 16 鉄地木瓜形肉彫象嵌竜図 肥前住忠長
- 17 鉄地丸形銀覆輪糸透海草図 唐津住正国
- 18 鉄地丸形肉彫色絵養由基図 須古住釘本弥左  
(花押)
- 19 鉄地丸形打出雲竜図 行年七十二歳  
肥前住勝貞作
- 20 鉄地丸形地透鳥居図 肥前住勝貞作
- 21 鉄地木瓜形透葦図 勝義
- 22 鉄地丸形高肉彫色絵人物図 肥州住家廣
- 23 鉄地丸形銀糸目覆輪肉彫色絵隱月涛図  
肥荔住家廣
- 24 鉄地丸形透松帆図 勝盈作
- 25 鉄地丸形地透松葉図 肥州住勝盈
- 26 鉄地変木瓜形透松図 肥州住勝常作
- 27 鉄地丸形肉彫茶道具図 肥州住勝常作
- 28 鉄地変四形肉彫象嵌月下兔図 勝常作
- 29 鉄地丸形無文 肥州住勝徴作(裏)  
享和二壬戌年
- 30 鉄地丸形肉彫波水鳥図 肥前国住致宜
- 31 鉄地変丸形肉彫色絵川辺秋草図  
肥前国住致宜
- 32 鉄地丸形肉彫蘭透図 唐津住正勝
- 33 鉄地撫四角空目肌(大) 肥前国忠吉作
- 34 鉄地撫四角空目肌(小) 肥前国忠吉作
- 35 鉄地丸形高肉彫地透鉢豆図(大)  
肥州矢上住光広
- 36 鉄地丸形高肉彫地透鉢豆図(小)  
肥州矢上住光広
- 37 赤銅磨地丸形片切彫色絵葡萄図  
肥前唐津住直充
- 38 鉄地八角形鋤下肉彫雨竜図 肥前国住忠長
- 39 鉄地丸形鋤下彫雨竜図 肥前国住忠長作
- 40 鉄地長丸形高肉彫色絵波岩上猿図 肥州住家廣
- 41 鉄地丸形赤銅縄目覆輪高肉彫地透象嵌雲竜図
- 肥前国向井吉兵衛於武州江戸作是
- 42 鉄地浅木瓜形肉彫色絵波朝日図  
慶応二丙寅仲秋吉村一啓(花押)
- 43 鉄地木瓜形肉彫小透象嵌月下兔図  
肥州住勝真作
- 44 鉄地丸形肉彫象嵌老松図 行年六十八子若道人  
(花押)
- 45 鉄地長丸形高肉彫色絵象嵌雲竜図 崎陽山人若芝
- 46 鉄地撫木瓜高肉彫竜図 肥前矢上住光廣
- 47 真鑄地丸形鋤下彫竜図(大) 平戸住国重
- 48 真鑄地丸形鋤下彫竜図(小) 平戸住国重
- 49 鉄地木瓜形高肉彫波兔図 謹早深山住常次
- 50 鉄地木瓜肉彫瓢箪図 肥州勝常
- 51 赤銅地丸形雲井透 唐津住光明(花押)
- 52 鉄地丸形繩目覆輪糸透 唐津住正勝
- 53 鉄地丸形空目肥無地(大) 真了
- 54 鉄地丸形空目肌無地(小) 真了
- 55 鉄地丸形唐草竜透図 南蛮錠
- 56 真鑄地四辺折曲肉彫花文図 ク
- 57 鉄地長丸形象嵌南蛮船透図 ク
- 58 鉄地糸巻形平象嵌竜図 ク
- 縁頭
- 1 鉄地高肉彫色絵象嵌雲竜図 風情齊若芝
- 2 赤銅地高肉彫鐘馗鬼図 佐嘉住自流軒常延
- 3 鉄地高肉彫色絵象嵌雲竜図 肥州矢上住光広
- 三所物
- 目貫 片切彫 秋草図丁卯秋日松園(花押)
- 小柄 肉彫色絵 網干に鷺図
- 笄 肉彫色絵 雲に雁図  
(裏) 雲まよふ夕の空のあま風にただ  
とびわたる雁の一つら 松根
- 持金具 片切彫波千鳥図 吉村一啓
- (3) 文獻
- 1 正広家代々刀工肖像図
- 2 忠吉家系図 斎藤高寿書 安永六年写
- 3 二代正広受領口宣案 万治三年
- 4 初代正広屋敷扶助料状寛永十四年
- 5 禁中様御太刀御注文 万治三年

- 6 注文状  
 7 河内守之扣綬  
 8 定  
 9 御城二面細工仕候次第 天和二年  
 10 刀脇差之注文  
 11 橋本謹一 橋本正広両家之書類 一冊  
 12 新刀弁 安永八年 鎌田三郎大夫著 九冊  
 13 その他  
 (4) 写真・その他  
 1 作刀工程見本 9点  
 2 作刀工程写真 14点  
 3 忠吉家一門使用金床  
 4 行広家一門使用金床  
 5 行広家一門使用仕事台  
 6 行広家一門使用水舟 (佐賀市真覚寺蔵)  
 7 行広家一門使用砥石 (佐賀市真覚寺蔵)  
 8 初代忠吉墓地写真  
 9 忠吉家代々の墓地写真  
 10 その他

### 昭和49年度企画展ポスター



昭和49年度企画展  
**松本弘二  
遺作展**  
佐賀県立博物館  
7月20日～8月4日



佐賀県立博物館  
7月20日～8月4日



3. 昭和49年度観覧者統計

A. 常設展

展覧会名	観覧者数	個 人			團 体			招待者	優待券	合 計	開館日	一日平均
		大人	大・高	中・小	大人	大・高	中・小					
佐賀県の歴史と文化展	5,675	1,492	3,291	1,240	350	4,176	646	137	17,007	197	86	

B. 企画展

展覧会名	観覧者数	個 人	團 体	招待者	優待券	合 計	開館日	一日平均	備考		
		大人	大・高	中・小	大人	大・高	中・小				
佐賀県の漁撈と水鳥展	4,902	372	520	1,563	1,074	425	2,293	11,149	15 743		
古伊万里作展	4,902	372	520	1,563	1,074	425	2,293	11,149	15 743		
松本弘二遺作展	1,078	518	644	1,057	1,425	600	419	20,353	10 2,035		
NHK放送のあゆみ展	1,078	518	644	1,057	1,425	600	419	20,353	10 2,035		
東理百武・久米・岡田三人展	2,928	478	673	671	2,266	4,037	2,572	5,741	10 574		
第24回佐賀県美術展	4,344	834	1,289	536	2,401	1,203	709	5,616	11 510		
松方コレクション展	20,140	2,620	6,262	6,171	5,318	6,000	3,868	13,625	33 412		
第15回佐賀県学童美術展	472	15	1,064					11,316	9 1,257		
第24回佐賀県高等学校美術展	248	288	191					50,379	16 3,148		
佐賀大學総合展示展	547	176	232					1,551	4 387		
植物新造跡写真資料展	5,051	652	732	24	468	921	17	380	5 76		
前 合	39,710	5,953	11,607	10,022	12,484	10,782	17	727	6 121		
49年度観覧者総数(A+B)		個 人	團 体	招待者	優待券	合 計	開館日	一日平均			
観 覧 者 総 数		大人	大・高	中・小	大人	大・高	中・小				
	45,385	7,445	14,898	11,262	12,834	16,909	11,428	154	146,664	344	423
								955	8 119		"
								129,657	149	357	
										870	

## 4. 普及活動

### (1) 資料の刊行

#### ○博物館報

年6回発行し、館蔵資料の紹介、行事のお知らせ、企画展の紹介、研究講座等の内容を写真入りで発行し、県内教育機関、社会教育団体等に配布し、館の利用促進をはかった。

発行回数 6回

印刷部数 1回 1,200部

形態 B5版 アート紙 8頁

#### ○年報No.4

今年度は第4号を発行し、昭和48年度の博物館の管理運営、事業、資料等の概況を報告した。

印刷部数 1,000部

形態 B5版 アート紙 76頁

内容 管理の概況

事業の概況

資料の概況

茶室の発足と管理の概況

昭和49年度の事業計画

#### ○「松本弘二」図録

この図録は、本県出身で二科会の重鎮として活躍された松本弘二氏の没後1年を迎えるにあたり、初期から晩年までの代表作を一堂に展覧した「松本弘二遺作展」の内容を紹介した。

印刷部数 200部

形態 B4変形版 アート紙110頁

内容 遺作展によせて

松本弘二作品紹介

松本弘二年譜

出品目録

#### ○「百武・久米・岡田三人展」図録

日本近代洋画史上、大きな業績を残した本県出身の百武兼行、久米桂一郎、岡田三郎助の三人の遺作を一堂に集めた「百武・久米・岡田三人展」の図録である。

印刷部数 834部

形態 B5版 アート紙 132頁

内容 三人の作品紹介

百武兼行……人と作品……

久米桂一郎のこと

岡田三郎助の芸術

百武・久米・岡田三人展年譜

出品目録

### ○「新遺跡資料展」図録

県内の遺跡のうち、昭和49年中に緊急調査、学術調査をした22遺跡から出土した資料を遺跡ごとに紹介した図録である。

発行部数	600部
形態	B5版 34頁
内容	原始古代の遺跡の紹介 発掘調査一覧表 出品目録

### (2) 博物館研究講座

今年度は、前期「常設展」「百武・久米・岡田三人展」「肥前名刀展」の開催中に展示資料を中心とした研究講座を実施した。

期日	演題	講師名	聴講者数
昭49・8・24	ヨーロッパにおける肥前磁器	文化財専門委員 永竹 威氏	85
49・10・5	日本近代洋画の流れ	九州芸術工科大学教授 岸田 勉氏	
"	近代洋画史における百武・久米・岡田芸術	東京国立文化財研究所 陰里鉄郎氏	65
50・3・15	肥前の刀と鎧	刀剣研究家 福永醉剣氏	80
	計		230

### (3) 移動博物館

普及事業の積極的推進をはかるため、博物館利用の機会にめぐまれない地域の人々のため移動博物館を実施しているが、今年度は太良町ほか2箇所で実施した。

展示品は、太良町、基山町では当館所蔵の考古資料を先土器時代から古墳時代までを系統的に展示しあわせて幕末から明治初期にかけて活躍した、古賀精里、副島種臣等の先覚者の書画12点を展示した。太良町では当館資料のほか、太良町所有の竹崎の火山弾をはじめ、先覚者の書画なども展示し市民の関心を集めた。

基山町では幅広く利用してもらうために開館時間を夜9時までとし、夕食後家族ぐるみの観覧者の便宣をはかっていた。主催者側の教育委員会、公民館の熱意に感謝する次第である。

相知町では、上記歴史資料を充実して展示したほか、自然史資料も展示し県内の岩石標本、混虫標本、野鳥の標本をはじめ、植物の分布パネル等を展示し、地元の自然が一目でわかるよう展示了した。

会場名	会期	期間	観覧者数
太良町立図書館	昭49・10・17～10・20	4	1,018
基山町公民館	10・23～10・25	3	1,243
相知町公民館	11・16～11・19	4	602
		11	2,863

## 5. 発掘調査

### 桃島山遺跡発掘調査

#### 1. 発掘調査者

佐賀県立博物館（主催）

北方町教育委員会（共催）

#### 2. 所在地

杵島郡北方町大字芦原字西平

#### 3. 調査の名称

桃島山遺跡発掘調査

#### 4. 調査の目的

桃島山遺跡には多数の甕棺片・須恵器・土師器片が濃密に散布していて、弥生時代から古墳時代の遺跡であることを物語っている。

先年、箱式石棺より前漢鏡1面、勾玉3個、管玉36個、素環頭刀子1口が発見され、以前に発見されていた後漢鏡1面とともに遺跡の重要性が指摘された。

しかし、この遺跡の全貌については不明な点が多い。そこでこの遺跡の調査により弥生時代の文化の究明と、併せて弥生時代から古墳時代へと移行する墓制の検討をおこない、この遺跡の文化史上の意義を追求する。

#### 5. 調査地点

桃島山北尾根頂部（海拔約80m）に数条のトレーニングを設定し、発掘調査を進める。

#### 6. 調査期間

昭和50年3月10日～3月19日（10日）

#### 7. 調査の組織

調査団長	佐賀県立博物館長	大園 弘
特別調査員	九州大学教授	岡崎 敬
"	佐賀県文化課文化財調査監木下之治	
調査員	佐賀県立博物館学芸課	志佐惣彦
"	"	森鶴一郎
"	北方町公民館	吉原龍道
"	"	福地 浩
"	佐賀市教育委員会	北原 学
"	北方町郷土研究会	松浦長彦
"	佐賀大学考古研究会	

#### 8. 調査団本部

杵島郡北方町芦原公民館

上記の要項により調査を実施した。調査結果については博物館報26号で概報したが、詳しくは佐賀県立博物館調査研究書第Ⅲ集で発表の予定である。

# 資料の概況

## 1. 昭和48年度末資料の概況

資料は大別して自然資料、考古資料、歴史資料、美術工芸資料および民俗資料に分類しているが、その概況はつぎのとおりである。

資料 約41,000点

自然史資料 約4,800点

佐賀県地形模型（25,000分の1）

佐賀市街地図（2,500分の1）

唐津市街地図（2,500分の1）

恐龍（タイラノザウルス）の生態模型（2分の1）

原生代（コレニヤ）

古生代（パラフズリナ・シダ）

中生代（魚類・アンモナイト）

新生代（メタセコイヤ・シキシマバス・二枚貝・サメ・ヨコヤマオウムガイ）の各種化石

研磨した佐賀県の岩石標本

佐賀県の植物標本

天然記念物エヒメアヤメの生態模型

佐賀県のチョウ類標本

佐賀県の甲虫類標本

佐賀県の野鳥標本

天然記念物カササギの生態資料

・生態模式パネル

・生態写真

有明海・玄海の魚貝類標本

カブトガニの発生順序

有明海の干潟と生物の模型

・干潟の状態

・ムツゴロウ・ワラスボ・シャミセンガイ・アゲマキ等

蛇紋岩の岩石標本

石英塊の岩石標本

角せんはんれい岩の岩石標本

考古資料 約18,100点

○先土器時代

尖頭器（杵島郡鬼の鼻山、多久市三年山・同茶園原遺跡出土）

細石器（馬渡島切立遺跡出土、伊万里市白蛇山岩陰遺跡出土）

○縄文時代

石器・土器（西有田町盗人岩洞穴出土、白蛇山岩陰遺跡出土）

西有田町坂の下遺跡出土の石器・土器・木器・編み籠の一部・木の実から発芽したアラガシの幼木

○弥生時代

三日月町土生遺跡出土の石器・土器・木器・炭化米・木の実

呼子町大友遺跡出土のカメ棺・装身具・伸展葬と屈葬人骨

唐津市桜馬場出土の鏡・銅鉗・巴型銅器ほか（重要文化財）

北方町東宮裾・樟島山遺跡出土遺物の一括遺物

県内出土の各種銅鏡・銅劍・銅戈等

上峰村切通・唐津市葉山尻・神埼町八子遺跡等出土のカメ棺

○古墳時代

佐賀市熊本山出土の舟型石棺ならびに副葬品（県重要文化財）

県内出土の各種武器武具・農耕用具

基山町伊勢山遺跡出土の祭祀遺物

北方町永池古墳の線刻文様（人物）

鳥栖市田代太田古墳（史跡）の模型および同古墳の壁画模写図・同復原図

関行丸古墳出土品（県重要文化財）

歴史資料 約 1,200点

基肄城跡（特別史跡）出土瓦・国分寺跡出土瓦および同寺瓦窯跡出土瓦

県内出土の蔵骨器・在銘経筒

木造聖観音立像（重要文化財模造）

木造円鑑禪師坐像（重要文化財）

八字文珠菩薩騎獅図像（県重要文化財）

水上懸仏（県重要文化財）

肥前鐘（県重要文化財）

今山合戦関係資料

豊臣秀吉の朱印状ほか文禄慶長の役関係資料

肥前名護屋城図屏風、朝鮮國禮曹の通諭文

島原の乱関係資料

藩政時代絵図および文教資料

佐賀藩精煉方関係資料

佐賀藩精煉方製造蒸気車雛形（鉄道記念物）同 蒸気船雛形

石造物（觀音像・地蔵像・五輪塔・板碑・六地蔵・三重塔・名護屋城旗竿石など）

パリー万国博覧会（慶応3年）参加関係資料

戊辰の役、佐賀の乱関係資料

郷土の先覚者の書・画等

**美術工芸資料 約16,100点（陶片を含む）**

○書跡

副島蒼海・中林梧竹・西川春洞・大坪格軒の書

○絵画

伝高橋由一（蛙）

百武兼行（イタリア風景・マンドリンをもつ少女・老婦人像）

久米桂一郎（フランス風景・りんご拾い・加茂川の新緑・ゼーヴル橋畔）

小代為重（久米桂一郎肖像・少女・チームス河畔）

岡田三郎助（花野・バラ）

藤島 武二（裸婦・婦人像）

青木 繁（ランプ・男の像・神話・夕焼の海・佐賀風景・浴女・かるた5・木下大尉の肖像

・絵葉書・書）

高木背水・北島浅一・御厨純一・武藤辰平・山口亮一ほか本県関係の代表的画家の作品

○刀剣その他

肥前忠吉初代・2代・3代・6代・7代・9代（刀・短刀・槍先）およびその他の肥前刀匠の作品・小道具・鎧・火なわ式銃・大筒

○陶磁器

古唐津系（茶碗・皿・鉢・大鉢・水指・徳利・花瓶・大壺）

初期伊万里系（茶碗・皿・徳利）

古伊万里系（VOC商標入皿・鉢・水指・徳利・角瓶・婦人像）

柿右衛門系（深鉢・徳利・壺・陶板）

鍋島藩窯系（皿・大皿・青磁花器）

県内の古窯跡出土の陶磁器片（各種）

**民俗資料 約800点**

有明海の漁撈具（重要民俗資料）・玄海の捕鯨用具一式

田代製糞関係資料

製蠟関係資料

採炭用具一式

石造物

**2. 昭和49年度購入資料**

**① 自然史資料**

品 名	数量	規 格	備 考
角閃斑れい岩	1	約10トン	佐賀郡富士町上合瀬 林道傍

②歴史資料

品 名	作 者	数量	規 格		
(先覚者の書画)					
古梅図	草場佩川筆古賀精里識	1 幅	掛幅装	紙本墨書	130.3×58.4
「固其忠云々」七言一行書	鍋島 直彬	1 幅	掛幅装	紙本墨書	136.2×30.0
「花月百首よみける中に」短歌二首	今泉 蟠守	1 紙	捲り	紙本墨書	115.0×31.9
「以津となく云々」短歌一首	今泉 蟠守	1 紙	捲り	紙本淡彩	27.7×43.7
二頃田園云々 七言絶句	鍋島 直正	1 幅	掛幅装	絹本墨書	116.0×40.0
柳暗花明云々 七言一行書	鍋島 直正	1 幅	掛幅装	紙本墨書	130.0×28.5
萬代平云々 二行書	島 義勇	1 幅	掛幅装	絹本墨書	119.5×36.0
千年丹頂云々 九言一行書	鍋島 直温	1 幅	掛幅装	紙本墨書	130.5×27.5
松竹梅図自画譲	草場 佩川	3 幅	掛幅装	絹本墨書	137.0×49.5
大竹図自画譲	草場 佩川	1 幅	掛軸装	紙本墨書	130.0×53.0
常盤木の云々 和歌一首 (幕末資料)	柴田 花守	1 幅	掛幅装	紙本墨書	
精棟方銘磁器徳利 (図書、文書資料)	武雄二の丸窯	2 基	磁器	高20.5 口径6.6	
晋州壬発事蹟忠烈錄	崇禎204年銅翰写	1 冊	木版 和綴	30.5×22.7	
朝鮮古蹟図譜	旧朝鮮總督府編	15 冊	全15巻	名著出版復刻版	42.2×30.7

③美術工芸資料（絵画）

品 名	筆 者	数量	規 格		
鷺図	牛島 藍臘	1			
向島風景	百武 兼行	1	油彩	厚紙 タテヨコ 55.8×37.7	
梧桐竹図	中林 梧竹	1	紙本水墨		
男鹿の夏	松本 弘二	1	油彩	画布 80.3×100	
ル・バザール	"	1	油彩	画布 116×91	
吾子の初旅	"	1	油彩	画布 130.3×12.1 162.1	
岬の男	古賀 忠雄	1	ブロンズ	像高 180	
藻鯉図	天竜 道人	1	絹本着色	102.5×43	
鳳凰図	広渡 心海	1	絹本着色		
竹に亀図	"	1	"		
鷺図双幅	武富 垂南	2	"		
岡田三郎助素描、婦人習作(1)	岡田三郎助	1	紙 鉛筆	9.8×13.1	
富士山	"	1	"	14.3×21.2	
風景習作(1)	"	1	"	10.2×16.3	
婦人習作(2)	"	1	"	17.7×10.2	

風景習作(2)	岡田三郎助	1	紙 鉛筆	6.6×10.2
婦人習作(3)	"	1	"	15.2×10.4
農家	"	1	"	23.2×15.0
人間習作(1)	"	1	"	17.5×10.0
風景習作(3)	"	1	"	12.7×11.6
人物習作(2)	"	1	紙 木炭	8.3×6.2
婦人習作(4)	"	1	紙 鉛筆	14.8×8.2
牛	"	1	"	14.2×8.6
ハルピン	"	1	紙 木炭	6.0×9.3
家並	"	1	"	14.6×19.5
風景習作(4)	"	1	紙 コンテ	10.3×17.7

(陶磁器)

品 名	数量	規 格
染付芙蓉手花籠図平鉢	1	径46.8
ドイツ・マイセン窯肥前磁器做製品絵いすぶどう図輪花型平鉢	1	径23.5
象嵌文鉢 (武雄古唐津系)	1	径37.5
染錦桜花ちらし菊唐花文透彫手付注器 (古伊万里)	1	高さ

### 3. 昭和49年度寄贈資料

① 自然史資料

品 名	数量	規 格	備 考
石 英 (石珪)	1	約 2.5トン	佐賀郡富士町杉山産 佐賀郡富士町大字小副川2021 木島 忠幸寄贈
蛇紋岩	1	約 3.5トン	東松浦郡相知町根ノ木産 東松浦郡厳木町厳木宿 田久保浩之寄贈

② 考古資料

品 名	数量	寄 贈 者
石斧	1	小城郡三日月町織島369 陣内 忠

③歴史資料

品 名	数量	規 格	寄 贈 者
パリ万博出品カタログ類	155冊	活字冊子及びパンフレット類	深川 マス
「著假者云々」二行書 小笠原長行筆	1幅	掛軸装 紙本墨書 87.3×31.3	富岡 フミ
「釣竿云々」七言一行書 古賀穀堂筆	1幅	掛軸装 紙本墨書 123.7×27.5	〃

④美術資料

品 名	作 者	数量	規 格	寄 贈 者
素描 裸婦	松本 弘二	1	紙、木炭 38×50	松本 藤枝
〃 画室にて	〃	1	紙、鉛筆 45×56	〃
リトグラフ 黒主	〃	1	紙 38×54	〃
レリーフ 松本弘二像	本郷 新	1	ブロンズ 16×12	〃
石版 松月図画譜	岸 天岳	1	紙 127.0×53.0	富岡 フミ
〃 竹図画譜	〃	1	紙 "	〃

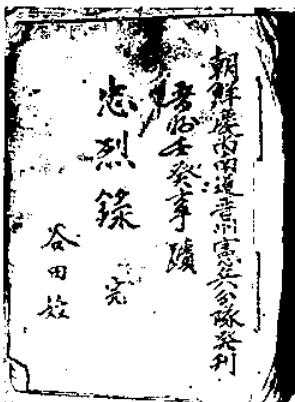
⑤民俗資料

品 名	数量	規 格	寄 贈 者
船魂	1		井上 徳二
停泊燈	1		〃
櫂	1		〃
蓄音機	1	エジソン型 42×30.5×41.5	西岡 三郎
佐賀のわらべ唄	1	テープ 100-7 370m	N H K 佐賀放送局
佐賀のものうりの声	1	テープ 100-7 370m	〃
佐賀のわらべ唄	1	子守唄など10曲入り	N H K 放送博物館
佐賀のものうりの声	1	行事唄7曲 遊び唄8曲入り	〃
大隈重信の声	1	大正4年の演説	〃
町内会諸係木札	90	20×7.5	宮原 律子
燈火管制用覆い	2	布製	〃
有明海漁撈具	4	ミエアミ1 ジョレン1 ミジョウケ1 アナゴバナ1	佐々木辰男
〃	5	ガンヅメ2 ウチカキ1 スボカキ1 ジョレン1	古川 好雄
〃	4	マチ網模型1 オシオケ1 ハネイタ ウミタケネジ1	園田 正夫
〃	2	アゲマキツリ1 ウナキカキ1	江頭 平太
〃	1	イタグワ1	江島 光次
〃	6	タキャッポ6	川瀬 一己

有明海漁撈具	1	サシオイ 1	坂井 忠行
"	1	ミジョウケ 1	池田 善次
フィゴ(鞆)	1	60×107×34	大塚 正人
船	1		井上 武男
タイ釣具	1	50匁浅海用 釣針2個付	中溝 信
1本釣	1	釣針6個 錘300付	福浦 保国
イカ籠	1	竹枠網製径1m高40cm	山下浪治郎
タコ壺	2	口径12cm高さ28cm	"
ブリ曳繩	1	疑餌10個付	堀尾 茂広
イカ釣	2	1本釣用1 連結用錘300付1	浪口 定文
イサキ釣	2	昼間用1 夜間用1	"
イカ釣	1	1本釣用1	"
生巣	2	竹製口径60cm 高さ80cm	堀尾 茂助
三谷製紙用具	35	杵1 マガ1 竹籠1 搅拌機1 落し網1 ケタ4 打織機用モーター1 ミス1 釣竿3 紙型上・下2 登録證票1 叩石1 サロンパス膏葉紙1 投票用紙5 干板2	宮地 勇



珪石大塊(2トン)



晋州王発事蹟忠烈錄



中林梧竹筆桐竹図



草場佩川筆古賀精里贊古梅図

## 4. 昭和49年度寄託資料

### ① 歴史資料

品 名	数量	規 格
名古屋城跡出土瓦片	6 片	米倉棟飾瓦片、字瓦片、燈瓦片、字飾瓦片、シビ瓦片、銘入字瓦片
金武良哲関係書籍 13種	25 冊	ビスコッフ治療書 9 冊、外
緋威二枚胴具足	1 領	兜、頬当、胴、袖、籠手、佩楯、臍当揃
和銃	10 挺	火縄式 7、管打ち式 1、籠鉄砲 1、中筒 1
好生館医学教科書類 10種	23 冊	和綴木版、西医略論外
旧好生館写真	2 葉	玄閨、治療棟
弘道館蔵印資料 17種	37 冊	古事記（上）外
素懸萌黄威五枚胴具足	1 領	兜、頬当、胴、草摺佩楯、臍当籠手揃
火事装束	1 領	兜、頬肩覆布付
書見台、書庫、机、手習本等	1 組	各木製、手習本等は和綴
定家筆 化城喻品断簡	1 幅	紙本墨書、掛軸装 20.5×20.8
宗祇筆 清水寺にて句	1 幅	紙本墨書 掛軸装 19.2×21.6
大木英鉄筆 泰盛院肖像	1 幅	紙本墨書 掛軸装 46.5×18.5
鍋島綱茂筆 諸葛孔明像	1 幅	絹本着彩 掛軸装 91.5×33.5
枝吉徑種筆 詩書屏風	6 曲 1 収	紙本墨書 各扇 136.0×46.5
古賀精里筆 詩書屏風	6 曲 1 収	紙本墨書 各扇 130.0×42.0
星座儀	1 基	木箱付 径34.0
古賀素堂筆 扇面	1 幅	掛軸装 紙本墨書 15×46.2
久米邦武筆 久能山詩	二面 1 帖	掛軸装 紙本墨書 128.4×31.0

### ②工芸

品 名	数量	規 格	寄 託 者
古伊万里花籠図平皿	1	径31.5	永竹 威
初期伊万里染付雀図皿	1	径20	"
初期伊万里染付波兔図皿	1	径20	"
初期伊万里染付吹墨兔図平皿	1	径20	"



草場隔川筆  
大竹図画贊



草場隔川筆  
松図画贊



草場隔川筆  
竹図画贊



草場隔川筆  
梅図画贊



今泉蟬守筆  
和歌二首



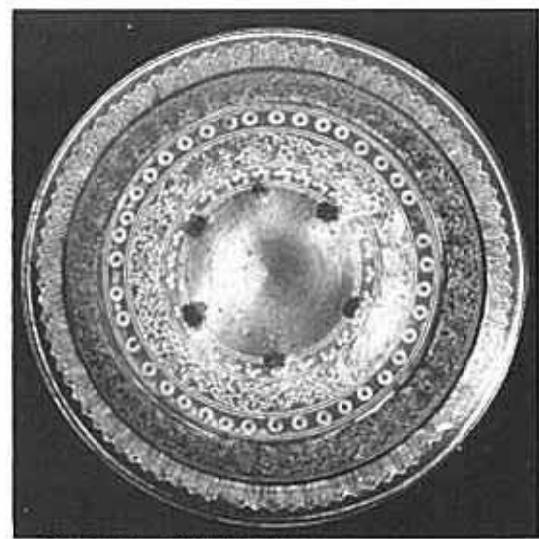
島義勇筆  
和歌二行書



鍋島直彬筆  
七言一行書



ドイツ、マイセン窯肥前磁器  
做製品色絵りすぶどう図輪花型平鉢



象嵌文鉢（武雄古唐津系）



染錦櫻花ちらし  
菊唐花文透彫手付注器（古伊万里）



染付芙蓉手花籠図平鉢（古伊万里）

# 茶室「清恵庵」の管理と運営の概況

茶室「清恵庵」は、昭和48年10月郷土出身の実業家故市村清氏のご遺志により、同夫人幸恵氏より本県に寄贈されたもので、今年で2年目を迎える。なお、本年は施設面において茶室の窓と寄付に簾を取り付け、また室内に夏用のよし戸を整備し、一段と趣をそえて、利用者に大へん喜ばれている。

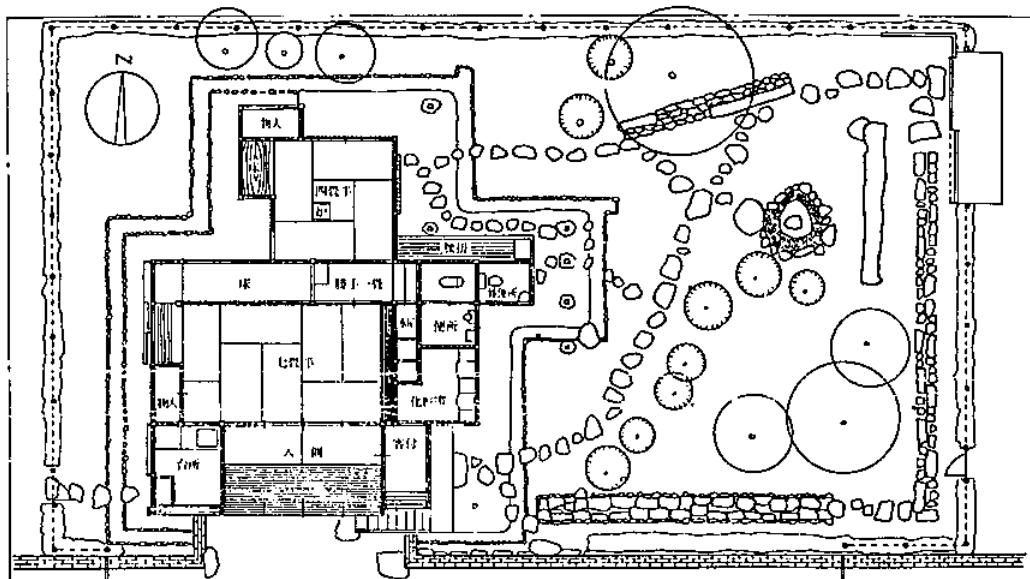
## 1. 茶室の規模および施設

設計者 堀口捨己 東京都太田区山王4-6-5

早川正夫 東京都港区南青山5-9-12 アイザワビル

構 造 木造平家建寄棟造 規模 床面積 57.35m<sup>2</sup> •

茶室平面図



## 2. 茶室の規則、規程

○佐賀県立博物館の管理に関する規則（昭和45年佐賀県教育委員会規則第10号）抄

第15条 館長は、博物館の業務に支障のない範囲内において、大展示室・中展示室及び茶室等の施設を博物館事業に関係のある行事のために使用させることができる。

附 則（昭和48年10月11日規則第11号）

この規則は昭和48年10月11日から施行する。

○佐賀県行政財産使用料条例等の取扱いについて

地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の4第3項及び佐賀県立博物館の管理に関する規則（昭和45年佐賀県教育委員会規則第10号）第15条の規程に基き、佐賀県立博物館の大展示室・中展示室及び茶室の使用を許可する場合の事務手続き及び使用料については、佐賀県行政財産使用料条例（昭和39年佐賀県条例第33号）及び佐賀県公有財産規則（昭和40年佐賀県規則第6号）を適用し、関係条項の取扱いは、右記のとおりとする。

## 記

1. 大展示室・中展示室及び茶室の一時使用許可の手続きについては、佐賀県公有財産規則第20条の規定によることとする。
2. 前項の許可による使用料の額は、佐賀県行政財産使用料条例の別表中「講堂、体育館及びこれに類するもの」に該当するものとしてその額を定めるがこの場合、昭和39年12月17日付管第642号の総務部長通知による定めにかかわらず、実情に即して下表によることとする。

名称構造等	面 積 (m <sup>2</sup> )	期間 (時間)	使用料 (円)
大 展 示 室	523.5	4	1,500
中 展 示 室	136.0	4	500
茶 室	57.35	4	1,500

3. 前項の使用料の減免について佐賀県行政財産使用料条例第5条を適用する場合その取扱いについては前項の総務部長通知の運用によることとする。
4. 大展示室・中展示室及び茶室を使用させるさいの光熱水費等については、前項の総務部長通知の取扱いによることとし、なお光熱費等の徴収額は、下表のとおりとする。

区 分	大展示室	中展示室	茶 室	備 考
冷暖房しない場合	310	70	30	1時間当たり
冷 房 の 場 合	840	140	—	〃
暖 房 の 場 合	590	130	—	〃

（佐賀県立博物館茶室「清恵庵」使用規程（昭和48年10月20日 佐賀県立博物館規定第26号）

### （趣 旨）

第1条 佐賀県立博物館茶室清恵庵（以下「茶室」という）の使用については、この規程の定めるところによる。

### （使 用 申 込）

第2条 茶室を使用しようとする者は、茶室使用申込書（別記様式第1号）により使用期日の10日前までに佐賀県立博物館長（以下「館長」という）に申し込むものとする。

### （使 用 の 許 可）

第3条 館長は、前条の申し込みによる茶室の使用を認める場合は、茶室使用許可証（別紙様式第2号）を交付するものとする。

### （許可の取消等）

第4条 館長は、茶室の使用許可を受けた者が次の各号の1に該当する場合は、使用の許可を取り消し、又は使用を中止させることができる。

1. 茶室使用申込書に虚偽の記載があったとき。
  2. 許可の条件に違反したとき。
  3. 関係職員の指示に従わなかったとき。
2. 前項の許可取消等により生じた損害についての補償は行なわない。

### （附 則）

この規程は、昭和48年10月20日から施行し昭和48年10月11日から適用する。

### 3. 茶室の利用状況

茶室「消恵庵」の利用については、2年目に入り、県内はもとより県外にも広く周知され、学校の茶道グループ、あるいは県内の各流茶道グループ、その他茶道の同好会などにより、巾広く利用され好評を得ている。

月別にみた利用状況は下表のとおりである。

年 月	利用団体数	利用者数(名)	見学者数(名)
49. 4	3	43	186
5	6	390	138
6	1	60	185
7	3	33	57
8	0	0	46
9	1	28	36
10	1	30	42
11	5	64	149
12	2	20	29
50. 1	7	102	19
2	2	192	15
3	3	83	33
合 計	34	1,045	935

### 4. 茶道具資料

(1) 昭和48年度末資料の概況は次のとおりである。

資料 約126点

掛物 (淡淡斎宗室、希斎宗有、大徳寺桃林の書)

花入 (胡銅、朝鮮唐津、黒牟田焼、小山路焼、備前焼)

香合・香炉 (12代今右衛門、井上萬二、黒牟田焼)

茶碗 (12代中里太郎右衛門、黒牟田焼、小山路焼、大川内焼青磁)

水指 (朝鮮唐津、小山路焼)

風炉 (道安風炉、切合唐銅風炉)

釜 (切合釜、竹紋縁口釜、筋入炉釜、菊桐地紋炉釜、雲竜釜)

棚 (竹台子、桐丸卓、桑小卓、真塗長板)

染付火入 (12代今右衛門)

建水 (黒牟田焼、小山路焼、唐銅)

緋毛氈、円座等、

(2) 昭和49年度購入資料 14点

品 名	数量	規 格
片木目鞍形ため塗貯盆	1	木具師、橋本万象 26×16.9×9.2
唐津刷目茶碗	1	13代中里太郎右衛門作 口径16 高さ6.5
絵唐津茶碗	1	13代中里太郎右衛門作 口径12 高さ8.2
信楽水指	1	高橋樂斎作 口径15.5 底径18 高さ18.5
唐津絵粉引鉢	1	13代太郎右衛門作 径19 高さ7.3
銀縁香合みる貝	1	宗祥作 径7.5 高さ2.3
曲湯桶	1	径26.5 高さ26
本桐桑色置炉	1	縦39.8×横39.8×高17.5
炉・置炉用炭型電熱器	1	100V-600W
合金面取風炉	1	コンロ式電熱器 口径29 腸径32 高21
織部瓶掛	1	口径28 高15.5
白さつま瓶掛	1	コンロ式電熱器
傘立	1	
エバーポット	1	

(3) 昭和49年度 寄贈資料 5点

品 名	数量	規 格	寄 贈 者
鳥絵文鉄絵香合	1	黒牟田焼 腸径7.3 高さ4	丸田 正美
伊羅保草文片口深鉢	1	黒牟田焼 口径16.5 高さ9	"
和紙染花文盛器	1	小山路焼 口径9.5 高さ7.5	江口 勝美
赤濃菊絵香炉	1	源右衛門窯 腸径11.5 口径9.5 高さ11	館林 源
青磁茶碗	1	小笠原長春窯 口径13 高さ7.3	小笠原 隆



青磁茶碗



赤濃菊絵香炉



絵唐津茶碗



唐津刷毛目茶碗



和紙染花文盛器



信楽水指

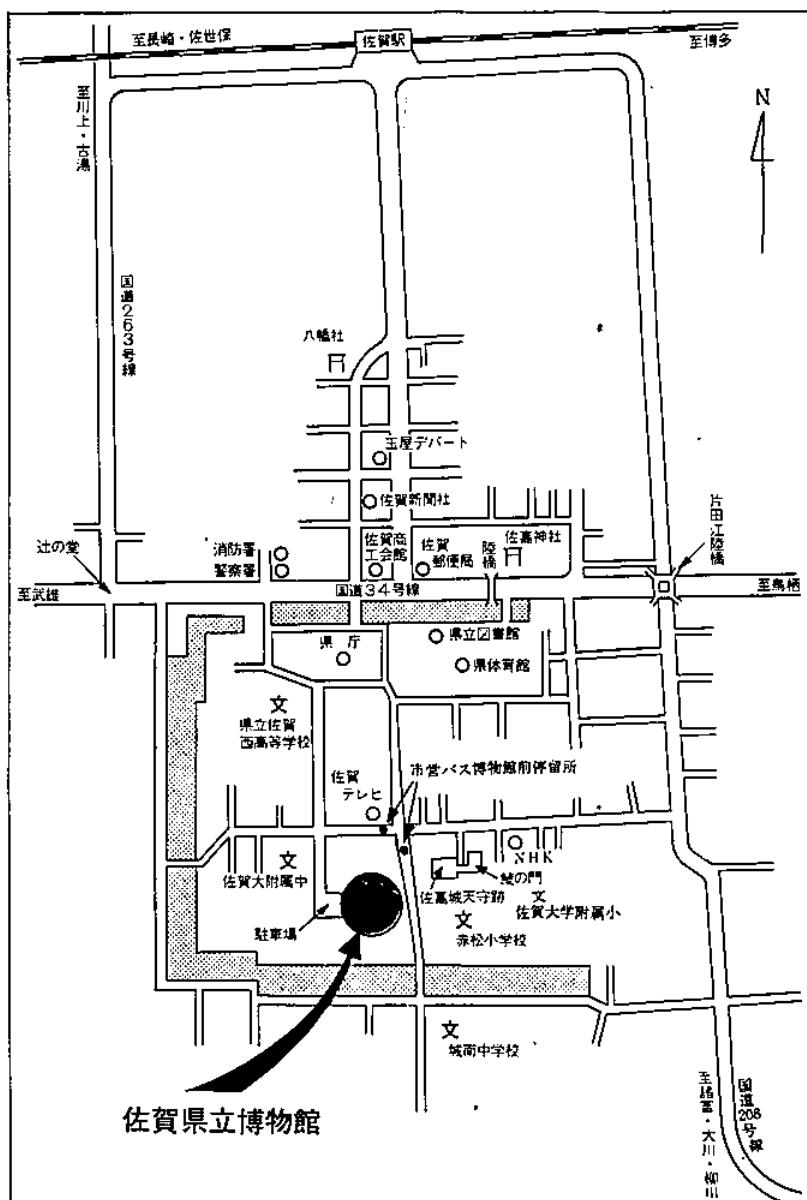
## 昭和50年度の事業計画

常 設 展			
佐賀県の歴史と文化展	4月1日～5月25日 8月13日～9月24日 12月7日～3月31日	大人 50(30) 大・高生 30(20) 中・小生 20(10)	佐賀県の地質時代から現代までの自然史資料や考古、歴史、美術工芸の資料を系統的に展示し、本県の歴史と文化の特質について一般の理解に資する。

企 画 展			
展覧会名	会	観覧料 ( )内は団体料金	備考
佐賀美術協会展	5月21日～5月25日	常設展の料金に含む	佐賀美術協会展は本年第58回を迎える。例年公募展と会員展にわかれ、公募は日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門からなり入選点数二百数十点が展覧される予定である。 佐賀美術協会は既に60年余の歴史を持ち、県内では県展と並んで大規模な展覧であり、また有力な新人の登龍門ともなっており、本年も力作が期待される。
生物進化展	6月1日～6月22日	大人 200(150) 大・高生 150(100) 中・小生 100(50)	地球上に生物が出現してから今日まで、海陸は変化し原始単細胞生物は、長い年月の間に海から海辺そして陸上の生活へと移行した。その進化の過程を化石、模型、背景パネルを使い組織的、系統的に展示し、地球の歴史と生物の進化についての知識や理解を深める。
ドレスデン 古伊万里名品展	7月2日～8月6日	大人 300(250) 大・高生 200(150) 中・小生 100(50)	江戸期工芸文化の精華ともいえる肥前磁器が、ヨーロッパ地域に輸出されたのは17世紀のなかば1653年(承応2年)であって、長崎出島を積出し港としたオランダ連合東印度会社の貿易事業によるものである。 この交易内容の変遷を裏付ける東ドイツ、ドレスデン美術館(旧ツヴィンガー宮殿)の収蔵品158点で250年ぶりの古伊万里、里帰り展が、日本赤絵のふるさと、佐賀県で開かれる事はたいへん意義深い。
労働者美術展	8月30日～9月7日	無 料	美術愛好の労働者の作品を対象とした労働者美術展は今年7回目を迎える。公募の形式をとっているが、絵画、書写真、工芸の4部門からの全出品作品約250点を展覧する。
理科作品展	9月14日～9月25日	無 料	佐賀市内および佐賀県内の小・中・高校の児童・生徒のすぐれた動物(昆虫を含む)、植物、岩石鉱物、理科創作品を展示し、科学に関する創意的研究の育成と向上をはかるとともに、広く一般の観覧に供し、科学教育に対する理解を深める。
九州沖縄グラフィック デザイン展	9月27日～10月1日	無 料	九州、沖縄グラフィックデザインの公募展で第一線級で活躍している招待作家約50点と公募入選100点、計150点の展覧である。今年で第5回をむかえ、年々レベルも向上し有力な新人の登龍門としてデザイン界の注目をあびている。
仏教美術展	10月10日～11月9日	大人 200(150) 大・高生 150(80) 中・小生 100(40)	仏教伝来以来、肥前では仏の信仰と共にその文化が普及し、中央との交流の中に色々な面での文化の発達がみられてきた。 当館では、仏像、仏具、古刹の古瓦等をはじめ彫刻・絵画・工芸・石造物などを一堂に展覧し、肥前の生んだ文教文化を美術史のうえから追求しようとするものである。
第25回佐賀県美術展	11月22日～11月30日	大人 100(80) 大・高生 50(30) 中・小生 30(20)	日本画、洋画、彫塑、工芸、写真、書、宣伝美術の各部門にわたり県内より公募したものの入選作品、招待作品、審査員の特別出品等を展示して佐賀県における現代美術を一般に紹介し、地方文化の高揚に資する。
佐賀県高等学校美術展	12月4日～12月10日	無 料	佐賀県内の高等学校生徒が製作した水彩、油彩等の絵画を一般に公開する。

展覧会名	会期	観覧料 ( )内は団体料金	備考
佐賀県高等学校美術展	51年 1月22日～1月25日	無 料	県内高等学校生徒の書道作品を展示し、一般県民および生徒、児童に公開することによって、高等学校生徒の書道文化と技術の向上に資することを目的とし、併せて名高等学校書道部員相互の研鑽の場に供する。
佐賀県書道教育連盟 書初展	2月5日～2月8日	無 料	県内小、中高生及び一般人の毛筆書写について関心をもたせ、たゆまぬ努力によって作品効果が表現出来るこことを理解させるための展示であって、ひいては本県の書道教育の向上と佐賀県書道の振興発展に寄与することを目的とする。
笹井茂雄退官記念展	2月14日～2月18日	無 料	佐賀大学筒井茂雄教授が3月退官されるのを記念し、教授の長年にわたる美術教育の研究の成果とS46年東光会出品作「嬉野風景」80Fなど油絵30点、それにデザイン科卒業生作品など総計60点を展示する。又会期中の最終日には、スライドをおしての記念鑑賞会も予定している。
佐賀大学卒業制作展	2月22日～2月28日	無 料	佐賀大学美術科は特設美術科教員養成課程、中学美術教員養成課程、小学校教員養成課程図工選修の各コース成りたち、特別教科は九州・山口一円に亘り高校美術・工芸の教員としての多くの人材を送り出しております。毎年この期に当り、在学中の研究の集約として各人努力作を集め展覧し、作品批評を頂くとともに本県民の方々の鑑賞を希求する。
三根俊郷展	3月6日～4月7日	大人 150 (120) 大・高生 100 ( 60) 中・小生 50 ( 30)	孤高の画家三根俊郷は、これまで殆ど顧みられることがなかった。しかし、その遺作は、油彩、水墨を問わず、彼の優れた画業を見せていく。今回、彼の遺作、遺品を一堂に展覧し一般の鑑賞に供するとともに、近代美術史上の彼の立場を明らかにしようとするものである。

# 案 内 図



## 交 通 機 関

佐賀駅から市営バス市内右廻り 博物館前下車  
左廻り

各バス（昭和、祐徳、市営）で県庁前下車

南へ300m 徒歩12分

佐賀県立博物館年報 第5号

発行年月日 昭和51年3月20日

編集発行 佐賀市城内1丁目15-23  
佐賀県立博物館

印 刷 合資会社 音成印刷所

**佐賀県立博物館**

〒840 佐賀市城内一丁目15-23 TEL(4)3947